



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

◆ かつての北野祭を継承する例祭齋行
◆ 約五五〇年ぶり「北野御霊会」再興
— 神仏習合の旧儀再興でコロナ禍収束と世界平安祈願 —

日本文化の中心地 京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築の中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与えています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居北野で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していききました。

表紙写真 — 約550年ぶり 例祭に伴う北野御霊会を再興 —

国家国民の安寧と新型コロナウイルス感染症の早期収束を祈願するため、当宮と比叡山延暦寺との神仏習合による「北野御霊会」を9月4日に再興した。当宮での神仏習合形式による儀式執行は、明治以降およそ150年ぶりであり、応仁の乱で途絶えたかつての北野祭（現在の例祭）に伴う北野御霊会としては実に550年ぶりの再興となり、当宮にとって歴史的な一日となった。



御挨拶

天門「北野の地」と御霊信仰 北野祭に伴う北野御霊会 五百五十年ぶりに再興



御本殿へと進む当宮神職と比叡山延暦寺の僧侶

先ず以て聖寿の万歳と皇室の弥栄、氏子崇敬者皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。
この度の新型コロナウイルス感染症により被害を受けられている皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。この混乱が一日も早く収束し皆様に穏やかな日常が戻りますことをご祈念申し上げます。

さて、現在の当宮社地周辺の広大な北野の地には、当宮創建以前より、全国六十余国に祀られた天神地祇の神々や五穀豊穡の雷神が祀られ、国家使節であった遣唐使の渡航安全祈願や大嘗祭に先立つ清めの儀式、そして大嘗祭に供えられる神饌調理がされる悠紀・主基院が設けられるなど、様々な祭祀が行われる神聖な齋場でありました。

このような聖地北野に、村上天皇天曆元年（九四七）、託宣により菅公の御神霊を奉祀し、北野社が創建されました。国宝『北野天神縁起絵巻』には、菅公が遠く大宰府の地で薨去された後、都で相次いだ早魘や飢饉、落雷、疫病などが人心を畏怖させる様子が描かれています。身に降りかかる斯様な災厄は、霊鬼的存在の象徴である怨霊の為せる業だと考えられた平安時代において、荒ぶる菅公の御霊を鎮め奉り、逆に人々に恩恵をもたらし、平安京を守護する神と崇めるため、菅公を天門である北野に手厚くお祀りしたのであります。

本来、怨霊や御霊の神々であれば鬼門に祀られて然るべき菅公の御霊が、聖地である天門に奉祀された事実は、まさに天神菅原道真公の御神威であり、永延元年（九八七）に一條天皇により勅祭として北野祭が斎行され「北野天満大自在天神」の神号を賜りました。こうして朝廷をはじめ世の人々は、天神を祀る北野社を「天満宮」として崇敬したのであります。ここに菅公は人として生まれ出ながら、非業の死により怨霊として畏怖されるも、天神地祇と火雷神を奉祀する北野に祀られることにより天神に転化し、人々を受難から救済し、疫病や災難を鎮め、幸福をもたらす神となられたのです。

そして現在、未だ収束の糸口が見えないコロナ禍の中、このような菅公の御事績と歴史を鑑み、この度当宮と御縁深き比叡山延暦寺とともに、かつての勅祭北野祭を継承する当宮の最も重要な祭祀である例祭齋行に伴い、約五百五十年ぶりに北野御霊会を再興致し、疫病退散はもとより、世界の平和と人々の安寧を祈願致しました。（二頁から十七頁及び二十四頁から二十六頁参照）

天神信仰は時代の要請に応え人々の心を支える救済の神として、時に多様に変化しその役目を果たして参りました。その発祥地である北野において、今の時代に最も求められている疫病退散・災難厄除などの御神徳を再び昂め、旧儀を再興することは必定であり、天神信仰の更なる発揚に務め、厳肅に神事を執り行い、国家安寧と世界平和、人々の幸福を至誠の心で祈念して参ります。

今後とも皆様の格別なるご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

（十三頁に続く）

北野天満宮

宮司 橘 重十九



例祭 宮司祝詞奏上



北野祭

八月七日 御手洗祭
九月四日 例祭・北野御霊会
十月一日〜五日 瑞饋祭

北野祭とは、例祭(大祭)を中心に、御手洗祭から瑞饋祭まで続く一連の祭礼



旧暦に復して二年目
北野祭を受け継ぐ「例祭」齋行

かつての勅祭北野祭を受け継ぐ神事として、当宮の祭典では最も重要な大祭である例祭を九月四日午前九時から御本殿にて厳かに齋行した。

本祭典は長年に亘り八月四日に齋行してきたが、令和に改元された昨年からは、北野祭再興への始動年として祭礼日を旧暦にあたる九月四日に復し、執り行っている。

例祭は当宮創建の翌年に私祭として始まったが、永延元年(九八七)八月五日畏くも一條天皇の奉幣があり「北野天満大自在天神」の御神号を贈られたことにより、勅祭北野祭として国家の祭儀と位置付けられ齋行されてきた神事である。永承元年(一〇四六)、五日は母后の国忌に当たるとして一日早い八月四日を北野祭祭礼日として定め、現在は例祭として受け継がれている。

当時の北野祭は、当宮所蔵の『北野祭礼図絵巻』にも描かれているように、平安王朝文化を漂わす豪華絢爛な神事であったが、応仁の乱によって、神事齋行が困難となり、神輿渡御を伴った本来の北野祭は途絶え、以来例祭として祭典のみが執り行われてきた。

現在当宮では様々な旧儀再興を行い、七年後の菅公千百二十五年半萬燈祭には、往時の北野祭の姿に再興するべく職員一九人となって取り組んでいる。

本年はコロナ禍の最中という状況を考慮し、責任役員など最小限に留めた参列者の見守る中、宮司が恭しく祝詞を奏上し、皇室の弥栄・国家安泰・氏子崇敬者の無病息災を祈った。



菅公千百二十五年半萬燈祭を見据えた旧儀再興
例祭北野祭に伴う「北野御霊会」を再興

当宮では、菅公慰霊の式年大祭である千百二十五年半萬燈祭を七年後に控え、約五年前から北



山門八講 祭場を清める散華

野の歴史を繙き、天神信仰の更なる発揚のため、旧儀再興に取り組んでいる。中でも当宮で歴史的かつ信仰的に最も重要な神事であったかつての勅祭北野祭を本来の姿に復し、来る半萬燈祭盛儀の機運を昂めるべく、昨年からは御手洗祭における八月七日の清め祓いの神事に始まり、北野祭の流れを受け継ぐ九月四日の例祭、そしてかつて北野祭で行われていた神輿渡御列を継承する瑞饋祭までの一連の神事を「令和の北野祭」と位置づけ、再興の枠組みを構築し、種々執り進めている。

昨年は、往時の渡御列を再興するための中核を成す「神輿」を復元させる北野神輿会を正式に発会し、現在着々と活動を進めている。

続く本年は、後述する勅祭北野祭の中でも菅公慰霊の重要な儀式であった「北野御霊会」を再興。今後一歩一歩であるが、遺された史料を繙き、信仰的観点に立ち、強い信念のもとに天満宮総本社に相応しい祭祀の姿を取り戻していく。



神仏習合の旧儀再興でコロナ禍収束と世界平安祈願 御本殿に響く延暦寺僧侶の山門八講重々しく

応仁の乱で一度は途絶えた勅祭北野祭に伴う「北野御霊会」。約五百五十年ぶりに全国天満宮総本社である当宮と天台宗総本山比叡山延暦寺によって再興し、例祭に続き九月四日午前十時から御本殿にて執り行った。

宮司が祝詞を、森川宏映第二百五十七世天台座主猊下が祭文をそれぞれ奏上し、神道と仏教による旧儀再興を寿ぎ、延暦寺僧侶が伝統の山門八講を講じ、猛威を振るうコロナ禍の一日も早い収束と世界の平安を祈願した。

北野社（現在の北野天満宮）は創建以来、明治元年（一八六八）の神仏分離までのおよそ千年間に亘り、延暦寺の管轄下にあり、とりわけ曼殊院門跡（天台五門跡寺院の一つ）との御縁が深く、菅原氏の出身だった曼殊院門跡初代門主の是算僧正が北野社の別当職に任じられて以来、代々の門主が別当を務めるのが慣例となり、社務運営などを統括してきた。

北野御霊会は、永延元年（九八七）一條天皇の勅命によって斎行された勅祭北野祭に伴い、御祭神菅公の御神霊をお慰めし、世の中の平安を祈願して執り行なわれてきた一大法要儀式。古記録などによる勅祭北野祭は、神輿渡御に続き八月四日に北野祭本祭、五日御霊会執行、六日に山門八講という形式を基に執り行われてきた。しかしながら、都を戦火に巻き込んだ応仁の乱（一四六七〜一四七七）により、祭事執行が困難となり、一連の北野祭諸祭儀は途絶えたとされる。その後は、神事としての「例祭」を斎行し、「御霊会」としては折々の式年大祭や遷宮祭で法要を執り行い、あるいは比叡山でも菅公慰霊の法要を執り行うなど、菅公鎮魂の儀式は当宮と



元治元年 北野臨時祭でのお供え以来凡そ150年ぶりに復元された「御菓子神饌」

延暦寺の両社寺でそれぞれ行われてきた。江戸時代には、大萬燈祭の折などに山門の僧侶が当宮に赴いて、御本殿で八講を執り行ったなどの記録はあるものの、「北野御霊会」と名付けての儀式執行ではなかった。

先人たちの想い受け継ぐ両社寺の使命
今、再興する御霊会の意義

管公の御霊を手厚くお祀りし、都に渦巻く災いを鎮めるために創建された当宮において、その信仰の原点は御霊信仰と言っても過言ではない。

折しもこのコロナ渦中において、来年天台宗の宗祖伝教大師（最澄）の一千二百年大遠忌を迎える延暦寺とともに、神仏習合による往時の北野御霊会再興を実現することは、当宮の歩んできた歴史に鑑みても洵に意義深いことである。

歴史と信仰を重んじ、先人たちの想いを受け継ぐ両社寺にとって、今求められている使命は世界の平安と新型コロナウイルス感染症の早期収束を祈る事であるとの想いが一致し、諸準備を整えたこの日、応仁の乱にて途絶えてより実に五五〇年ぶりの再興が実現に至ったのである。

宮司祝詞、天台座主猊下祭文奏上
疫病退散を祈願懇請

午前十時過ぎ、三光門前に神職並びに延暦寺僧侶が立、対揖の後二列で足並みを揃え御本殿へ静々と参進した。密集による新型コロナウイルス感染拡大を避けるべく、事前に北野御霊会再興のことは公表していなかったため、神職と僧侶が中庭を参進するという日頃見られない光景に、居合わせた参拝者は驚きの表情で見入っていた。



例祭 神楽奉奏



例祭 齋行



天台座主猊下 祭文奏上

当宮・延暦寺ともに招待人数を絞った少数の参列者が待つ御本殿では修祓・宮司一拝の後、先頃見つかった史料を基にして、元治元年（一八六四）の北野臨時祭再興でのお供え以来、百五十年ぶりに復元した二種の「御菓子神饌」が御神前に供えられた。

宮司が「（青年菅公が『顕揚大戒論』の序文を書かれたとの功績を称えた後）新型コロナウイルス感染症が流行し、医師らが防除に終日懸命な努力を払っておられる中、天台座主猊下を始め延暦寺僧侶を迎え、北野天満宮神職と心一つにして往古の儀法である北野御霊会を斎行する。一日も早く疫病の禍が去り、平穏な日々が来ることを切に祈る」とした趣旨の祝詞を奏上した。

引き続き天台座主猊下が「北野天満宮天神御前で延暦寺一山大衆と共に法華八講を修し、伝教大師一千二百年大遠忌報恩の誠を尽くさんとす」で始まる祭文を奏上された。祭文では、菅公の御遺徳を讃え「往古の神仏習合の祭事復興を発願された天満宮に吾ら天台末徒は参集した。古来より天台北嶺の学徒は神前で講経論義を以って報恩の赤誠を示し威光の倍增を促してきた」と述べられ「天満大自在天神、聞法随喜の徳を輝かし暗夜の群生に光を与えたまえ。伝教大師尊霊、暫く浄域を去って此の会に降臨し法孫が仏事を納受して冥加を垂れたまえ」と、菅公と伝教大師に天下泰平・厄難消除・疫病退散などの願いを強く乞われた後、玉串拝礼をされた。



法華経を問答形式で
講誦する「山門八講」

この後、延暦寺僧侶が天台宗の根本經典である『法華経』を、問答形式で講誦・供養する「山門八講」の法会が始まった。これは法華経八巻を八座に分けて講ずる延暦寺伝統の論義法要で、今回は三座にわたり行われ



延暦寺僧侶らによる論義法要「山門八講」



延暦寺僧侶参進



宮司玉串を奉りて拝礼

た。問答の合間には声明や般若心経も唱えられ、散華（供養のために花をまく仏教儀式）が行われるなど、御本殿内はかつて行なわれていたであろう仏法による会式の場が再現された。

山門八講が終わると、宮司に引き続き水尾寂芳延暦寺執行と藤光賢曼殊院門跡門主が玉串拝礼され、北野御霊会は終了した。

当宮では次年度以降も北野御霊会を斎行し、七年後の菅公千二十五年半萬燈祭には神輿渡御も加えたかつての北野祭を再興することを目指している。

御霊会終了後、文道会館での記者会見に臨まれた水尾執行は「コロナ禍などの厄災から逃れられるよう全身全霊を込めて務めた」、藤門主は「明治まで曼殊院門跡が北野天満宮の別当だったという御縁で参列させて頂き非常に有難かった」と話された。

通常ならば菅公御歌が掲げられる楼門には、北野御霊会に併せ、第六十二世を始め四度天台座主を務められた慈円大僧正（一一五五～一二二五）の御歌「覚めぬれば思ひ合わせて音をぞ泣く心づくしのいにしえへの夢」〔新古今和歌集〕を掲出した。この歌には「北野にてよみて侍りける」との詞書があり、当宮と御縁のある御歌である。

尚、この日の北野御霊会の模様は、多くの報道各社により新聞・テレビ・インターネット等を通じて発信された。



かつての勅祭北野祭とは、
京都を代表する絢爛豪華な祭り

再興を目指すかつての北野祭とは、一体どのような神事であったのか。実はその全貌は未だ明らかにはなっていない。応仁の乱や幾多の戦乱の中で失われ、遺された史料は数少ない。しかし当宮が立ち上げた文化研究所を中心に様々な文献を調査研究し、少しずつではあるが当



曼殊院門跡 藤光賢門主 玉串拝礼



延暦寺 水尾寂芳執行 玉串拝礼



御霊会を終え御本殿を後にする神職・僧侶

時の祭典の様子も分かってきた。永延元年（九八七）八月五日、時の帝一條天皇におかれては北野社に勅使を差遣なされた。臣下である管公を祀る社への奉幣は極めて異例であり、以後当宮では勅祭北野祭が恒例祭祀として執り行われた。さらに一條天皇は、寛弘元年（一〇〇四）北野社に行幸遊ばされ、これを嚆矢として歴代天皇の当宮への行幸は二十数度に及び、皇室所縁の社として崇敬を蒙る事となる。

皇室・朝廷の篤い崇敬の下、始められた北野祭の最盛期は中世室町時代。当時室町幕府足利政権主導の祭祀となっていた北野祭は、時の三代將軍足利義満公の絶大な支援と庇護を得た。

しかしながら順風満帆に見えた北野祭も、都の大部分を戦火に巻き込んだ応仁の乱により被害を受け、他の多くの社寺の祭祀と同様途絶するなど、時代の移ろいの中で幾多の困難に見舞われた。近世では幕末に孝明天皇が臨時祭として北野祭を執り行われた以外は齋行の記録は残っておらず、現在では祭典のみが例祭として受け継がれている。

京の都一と謳われた北野祭の神輿

北野祭は元々御霊会として始められ、後に神輿を中心とした神幸祭の性格が加わった。記録史料には、内陣に奉安された神輿を境内に安置し、様々な儀式を行った後、御旅所へと神幸する流れが記されている。

その渡御の姿は、二基の神輿を中心にした華麗な渡御列とそれに従う八乙女や諸芸能民たちで、描かれる神輿は莊嚴と呼ぶに相応しく、他に類を見ない豪華な織物による装飾品で覆われた立派な神輿であった。



記者会見場で披露された「御菓子神饌」



記者会見に臨まれた宮司・延暦寺水尾執行・曼殊院門跡藤門主（左より）



北野祭礼図絵巻に描かれた往時の勅祭北野祭

本年からは
半萬燈祭を見据えて、
北野萬燈会も開始

往時の北野祭は、夏の重儀御手洗祭から北野祭本祭までのおよそ一カ月間に及んだとされる。時代の変遷により、かつての渡御列が祭典とは分断された形で、現在は秋の瑞饋祭の一部として行われている事情も鑑み、御手洗祭から瑞饋祭までの期間を「令和の北野祭」と位置付けている。

また本年より開始した北野萬燈会は、来る令和九年菅公千二百五十年半萬燈祭に先駆けて、氏子崇敬者並びに参詣者皆様の御協賛によって行う行事である。

北野祭と同じく、古来連綿と継承されてきた当宮の式年大祭である「萬燈祭」。菅公薨去より、五十年毎に「大萬燈祭」、半分にあたる二十五年毎に「半萬燈祭」として執行されてきた。この神事には菅公慰霊と鎮魂の意味が込められ「萬燈」の名が示す通り、参詣者の一人一人が燈火を捧げることにより、御祭神の御霊をお慰めし神恩を頂く当宮第一の式年大祭である。

北野祭の前儀、祓い清めの祭典
「御手洗祭」 齋行

御手洗祭期間中は、八月六日に御手洗祭前夕饗、八月七日に御手洗祭を齋行。本年は明治期以来約一五〇年ぶりに旧儀に則った神饗を復元させ、厳肅に執り行った。

続いて平安京ゆかりの清め神事である「御手洗川足つけ燈明神事」を齋行。コロナ禍の現状に鑑み、足つけ神事の齋場となる御手洗川の距離を縮め、一度に川に入る人数を制限、入水前には検温と消毒を徹底するなど、万



御手洗祭でお供えする菅公御遺愛の水差し・角盥に梶の葉



例祭に先立ち齋行する祓いと清めの神事 御手洗祭



菅公御歌
彦星の行あひを待つかささぎの
渡せる橋をわれにかさなむ

御手洗祭期間中、七夕笹とともに1500灯の奉賛提灯で照らし出された境内

全の措置を講じて実施した。

コロナ禍の収束が未だ見通せない中、参拝者の動向が気になるところではあったが、初日から家族連れや浴衣を着た若い女性らが訪れ、ろうそくに火をつけて手を合わせ「一日も早くコロナが収束しますように」と祈る姿は印象的であった。

足つけ神事と併せて、恒例行事である『国宝御本殿石の間通り抜け神事』では、疫病退散と邪気消除を願い、重要文化財である「木像十三鬼神像」を特別公開。多くの参詣者が普段は立ち入ることのできない石の間より御神前に祈りを捧げた。

御本殿内は今年、慶長十二年（一六〇七）豊臣秀頼公御造営以来、実に四百数十年ぶりに内部が修復されたこともあり、人数制限を講じて行ったにも関わらず、実施した三日間とも予想を上回る参拝者が訪れ、慶長期の荘厳な姿が蘇った殿内を感慨深そうに歩み、手を合わせ、御神宝類を拝観していた。



**三光門前参道に
一五〇〇もの崇敬者の献燈輝く
コロナ禍収束を願いつつ、
半萬燈祭に向け「北野萬燈会」開催**

本年の新たな取り組みとして行ったのが、半萬燈祭の機運を盛り上げ、コロナ禍の収束と人々の安寧を願う「北野萬燈会」である。八月八日から十六日までの間、土曜・日曜日を中心に六日間に亘り、三光門前に設けられた崇敬者からの奉賛提灯の献燈約千五百灯に火が燈され、幻想的な雰囲気の中、献灯者の願いの灯が御祭神に届けられた。



国宝御本殿石の間通り抜け神事



御手洗川足つけ燈明神事

天門 北野天満宮と鬼門 比叡山延暦寺との関わり



国宝北野天神縁起絵巻 巻六 清涼殿落雷より 災いの象徴と恐れられた菅公の怨霊

一、北野天満宮の創建と天神信仰の成り立ち

◆ 北野天満宮の創建

現世に生を受けられた菅原道真公（菅公）が、位人臣を極めたのち左遷の憂き目にあい、薨去なされてより、およそ百年の歳月をかけて育まれた天神信仰。

詩歌に天賦の才を持ち、政治家としても優れた実績を遺された菅公が、「天神様」として神になる、そこには並々ならぬ理由があった。

菅公が無実の罪で大宰府に配流の身となったのは、延喜元年（九〇一）の事。二年後に失意の内に薨去され、さらに二年が経った延喜五年（九〇五）、門弟であった味酒安行らが、菅公の亡骸をお運びする牛車が突如止まった場所を御墓所とし、菩提を弔うための祠堂を建てた。

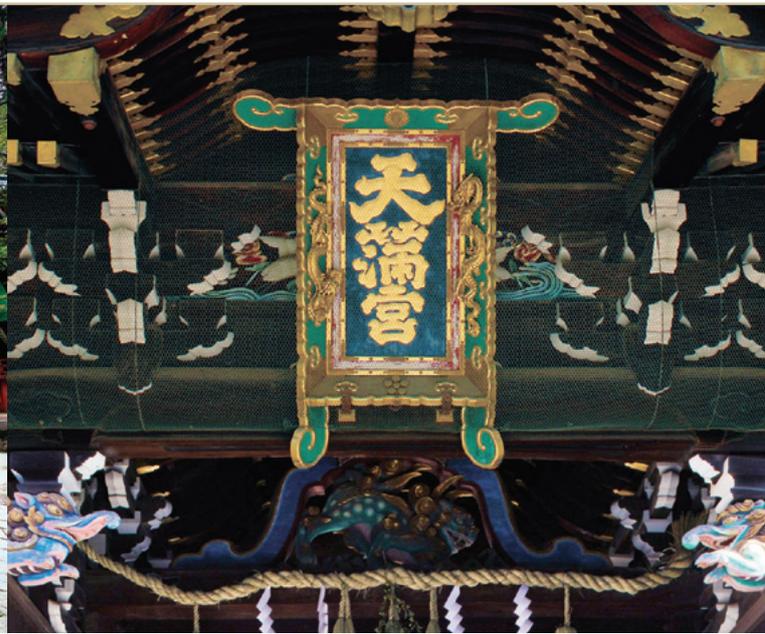
その後畿内を中心に、とりわけ京の都では、左遷の首謀者とされる藤原時平をはじめ、関わった多くの者たちが亡くなるなどの事件が相次ぎ、加えて疫病・地震・雷・飢饉など、あらゆる災いが都の人々を苦しめた。これらの事象が菅公の祟りではないかとの言説が流布する中、時の帝醍醐天皇は延喜二十三年（九二三）に菅公に科せられていた左遷の詔を廢し、階位を右大臣に復された。しかし混乱は収まらず、遂に延長八年（九三〇）歴史にいう清涼殿落雷事件があり、いよいよこれら一連の事件が菅公の祟りであると万民の知るところとなる。

こうした中で菅公の荒ぶる御霊を、慰霊と鎮魂により手厚くお祀りし、都を守護する神霊として崇め奉るため、古来聖地とされた平安京の北西「天門」の地にあたる北野の右近馬場に神殿を建て、北東「鬼門」を守護する比叡山延暦寺とともに、平安京の守護神という重要な役割を担う神社として天曆元年（九四七）に創建されたのが北野天満宮である。菅公が遠く大宰府の地で薨去されてより、実に四十四年後の事であった。

◆ 人から神へそして皇城鎮守神へ

永延元年（九八七）一條天皇より天満大自在天神の御神号が贈られ、当宮において勅祭北野祭が執り行われた。ここに至り、当宮は勅祭社として国家安泰を祈念する社となり、御祭神菅原道真公は現世において「神」として崇められ、天神様として祀られたのである。

以来、当宮は正暦二年（九九一）国を守護する重要な社である十九社に、続く永保元年（一一〇一）年には二十二社に列せられ、名実ともに国家鎮守の神社として認められ、以後朝廷・幕府より篤い崇敬を受けた。御霊として絶大な力を誇った菅公を手厚く祀ること世の平安を守る、まさに菅公への信仰は御霊信仰が



後西天皇勅額「天満宮」を掲げる三光門



比叡山延暦寺

原点にあり、やがて朝野の崇敬により御霊から善神へと転化し、菅公の御事績を讃える信仰は、その時代時代の要請に呼応し、社会構造と相まって取り入れられ、多くの人々の篤い崇敬を受けることとなる。確かなことは千有余年に亘る天神信仰、その原点は御霊信仰であり、菅公慰霊の儀式が当宮祭祀の中核を成すものということである。

二、北野御霊会の歴史と比叡山延暦寺の深い関わり

先に述べたように天神信仰の原点は御霊信仰であるが故に、菅公慰霊は当宮祭祀の最も重要な儀式として執り行われてきた。その一つが北野御霊会である。

北野御霊会は、菅公をお慰めし、世の平安を祈願するために行われてきた読経など仏教的要素を多分に含む会式である。

永延元年（九八七）一條天皇によって勅祭北野祭が斎行されてより、応仁の乱にて断絶する室町後期まで、八月一日〜三日までの神輿の渡御に続き、八月四日に北野祭、五日御霊会、六日山門八講という形式を基として行われてきた。四日に神輿の還御を受けた祭祀が営まれ、八月五日の御霊会では、朝廷・公家の奉幣、僧侶による読経・勸行・大行動・散華が行われ、獅子舞・田楽・舞楽・相撲等、様々な芸能が奉納された。六日には山門（比叡山延暦寺）の僧侶らによる山門八講（『法華経』八巻を八座に問答形式で講説する法会）が行われ、一連の祭礼を広義の北野御霊会と称した。すなわち、そのはじまりから中世まで、当宮の最も重要な祭祀である北野祭は、北野御霊会という一大法要を伴う姿で斎行されてきたのである。

◆ 御霊会と神仏習合

御霊会としては祇園会が有名だが、元々祇園社と北野社は都の二大御霊信仰として、国の安寧を願って祭祀を執り行い、御霊を慰め祈りを捧げ続けてきた。

当宮の別当職（統括）を代々務めた曼殊院門跡は、伝教大師最澄によって鎮護国家の道場として比叡山に建立された寺院で、天暦元年（九四七）当宮が創建されると、菅家出身でもあった曼殊院門跡の是算門主が初代別当職に任じられ、以後明治の神仏分離に至るまで、北野の別当職は曼殊院門跡が兼務してきた。

◆ 北野御霊会の会式と仏式法会

北野御霊会の三大要素として朝廷または貴族による奉幣と読経、そして東遊など芸能の奉納が挙げられる。今回の御霊会では、その中でも最も重要な要素である仏式法会（読経・山門八講）を再興した。いわゆる山門八講とは、問答方式で法華経八巻を講説する大変格式のある法会で、本年はコロナ禍の情勢に鑑み、疫病の一日も早い収束と人々の安寧を切に祈願するべく厳肅に営まれた。



比叡山に鎮座する登天天満宮



法力を止めさせるため、尊意の元に出現した菅公 北野天神縁起絵巻承久本より

◆ 中世以降の山門と北野天満宮

北野祭が途絶えた中世以降近世においても、当宮では、菅公薨去より数えて二十五年・五十年ごとに斎行する式年大祭萬燈祭や遷宮祭、または御祭神の祥月命日である二月二十五日において、山門（比叡山延暦寺）より僧侶を迎え、菅公慰霊の法要が営まれてきた。

神興渡御に参列し、御祭神をお慰めする法会・法要を行い、四智讚・諸天讚などの声明が奉納された記録も多数残っている。

また延暦寺の叡山文庫に遺されている享保四年（一七一九）に記された『天満自在天神法則』には、比叡山において御祭神の祥月命日にあたる二月二十五日に恒例の法会が行われていたことも伝わっている。

◆ 比叡山に祀られた菅公 登天天満宮の信仰

さらに比叡山には、菅公の御神霊をお祀りする登天天満宮が鎮座している。

延暦寺に伝わる由緒では、平安時代菅公の祟りとされた天変地異が相次ぐ中、比叡山東塔におられた天台座主尊意僧正が、自らの法力によって菅公の怨霊を封じた際、菅公の怨霊がその法力を止めさせようと尊意僧正のもとに出現した。しかしながら、かえって僧正の説法に心を悔い改め懺悔した菅公の怨霊は、将来自らが十一面観音菩薩となり人々の救いとなることを誓い、白煙となって比叡山から天に登ったと伝えられることから、登天天満宮と名付けられ、以来比叡山では戒律を守る僧侶を守護する神と崇められ、山王さんに次ぐ鎮守の神として祀られている古社である。

この度の北野御霊会再興は、このような比叡山延暦寺と当宮の神仏習合の歴史を踏まえ実現した行事であり、今後も両社寺の重要儀式として続けていくことになっている。

◆ 半萬燈祭に向けた旧儀再興

現在当宮では、式年大祭である七年後の菅公千二百二十五年半萬燈祭に向けて、境内整備とともに旧儀の再興を行っている。応仁の乱で途絶えたかつての北野祭のあり方を模索し、かつ現代にふさわしい形で再興すべく試みている中で、歴史を繙けば当宮にとって、神仏習合の伝統が無視すべからざる中核部分である。

顧みれば、元治元年（一八六四）、応仁の乱以降途絶えたかつての北野祭が、北野一社中によって再興が試みられ、幕末から明治五年まで齋行されたが、その折も北野御霊会と、比叡山の僧侶を招いての山門八講の再興は、実現に至らなかった。

先人たちの想いも汲み、令和の世に北野祭そして北野御霊会を神仏習合の伝統に則り再興することは、当宮の念願であるとともに、古来受け継がれてきた信仰・文化の復興、そして継承という意味で大変重要である。



天門「北野の地」と御霊信仰

和魂漢才の精神と誠の心を以て国家を導かれた菅公

今社報冒頭に述べた通り、菅公は人として生まれながら、非業の死により怨霊として畏怖され、当宮創建以前より天神地祇や火雷神を奉祀する聖地北野に祀られ、一條天皇より「北野天満大自在天神」の神号を賜ることにより天神となられました。

爾来、菅公を御祭神としてお祀りする天神様は一万二千社以上ののぼり、今やその信仰は全国に伝播しております。

一度はこの世に生を受けて、神上がりされた菅公への信仰が、これほどに我々日本人の心に深く浸透しているのは何故でしょうか。

『日本書紀』用明天皇の条に「天皇仏法を信じたまい、神道を尊び給う」との記述が見られるように、我国に神仏習合の文化が始まり、歴代天皇は律令国家建設に努められました。しかしながら世の中は安定せず、遂に時の桓武天皇は延暦十三年（七九四）、四海平安の祈りを込めて平安京に遷都されます。

菅公がこの世に出現されるのは、まさに平安京遷都より五十一年後、仏教伝来より三百年後のことですが、菅公は類稀なる学識を以て、古代より日本人の心の中に存在する我国固有の美的感受性を、学問・文章・漢詩・詩歌によって示され「文章は経国の大造」の志で国家を導き、様々な考えを認め合う共生の心、つまり和魂漢才の精神と誠の心を以て、実践に移されたのであります。

そしてその菅公精神を形に示された延喜式の典拠といわれる『類桑国史二百卷』や数多く遺された御歌に、その理由の一端を見ることができます。

和魂漢才とは自然界全てに靈性を認め、霊の働くところに神々を感じ、畏敬と畏怖の念を以て自然と共生する、縄文時代から育まれてきた日本固有の美的感受性からなる和の心と、飛鳥・大和王朝時代に伝来した仏教や儒教・道教・漢字・律令制度をはじめとする様々な外来異国文化との共存共栄の心を意味する「和合の道」をお示しになられたのであります。

菅公はそれまで混沌としていた平安京を、宇多天皇重用のもと創り固められ、千二百年に及ぶ王朝文化の都、京都誕生の礎を築かれたのであります。



祓いと清めの聖地 疫病退散の祈りが捧げられた北野の地

平安京大内裏、いわゆる御所の北西の隅「天門」に位置する北野の地は、古来雷神を祀り（摂社火之御子社）、あるいは天神地祇の神々を祀り（摂社地主神社）、祓い清めの祭祀が執り行われた聖地でした。

とくに当宮が創建される天曆元年以前、北野雷公と称えられた北野の雷神信仰は盛んで、仁和年間には祭祀が行えない旨を朝廷に上奏したところ、時の宇多天皇は之を聞き召されて、直に命じて臨時祭を齎行し祭祀の厳修を図られたほどでありました。

延喜十四年、都を襲った疫病大流行に際しては、その収束と疫病退散祈願の為に臨時祭として北野雷公祭を齎行し、悪疫除・疫病消除の祈りが捧げられました。この雷公祭も疫神を祓い鎮めるために平安京で盛んに行われた道饗祭や四角四堺祭の意味を持つ御祭として執行された重要祭祀と考えられています。

新型コロナウイルス感染症鎮静を祈願する「悪疫除」御神札を授与

古代より災いの象徴とされてきた疫病。近代に入ってもその猛威は続きました。古くはスペイン風邪や香港風邪、現代でもインフルエンザや新型コロナウイルスが人々の生活を脅かしています。

自然と共存して生活を営んできた人類の歴史は、一面では疫病との戦いだったとも云えます。今から百年前、一九二〇年代にスペイン風邪が日本で大流行した当時の当宮の社務日誌を繙くと、その被害は甚大で、罹患のために神職は出社できず、それに伴い職員の出勤を停止する、今でいう休業的な対応を執り、感染対策を講じた記述が見られ、スペイン風邪の早期収束を願う疫病鎮静祈願を執行したとの記録が残されています。

このように北野の信仰と歴史を振り返れば、当宮は様々な神々を奉祀し、祭祀を営む「祓い清めの聖地」にはじまり、創建以来、明治期に至るまでのおよそ千有余年に亘り、菅公慰霊と疫病厄除消除を祈願する神事と儀式を行ってきた「御霊信仰の地」でもあるのです。まさに今回の北野御霊会は当宮にとりまして大変意義深いものであり、再興出来ました事に改めて深く感謝する次第でございます。

こうした信仰に基づき、本年は新型コロナウイルス感染症の収束と人々の健康安全を祈願するため「悪疫除御神札」を社頭で頒布し、皆様にお受け頂いております。

引き続き、世の安寧と皆様の健康安全を心よりご祈念申し上げます。



悪疫除御神札

北野天満宮と比叡山延暦寺 — 御神宝が物語る深いご縁 —

比叡山延暦寺と北野天満宮は歴史上長らく本山・末寺の関係であった。北野天満宮の別当職（統括）を代々務めた曼殊院は、伝教大師最澄により鎮護国家の道場として比叡山に建立された寺院である。天曆元年（九四七）当宮が創建されると、菅家出身でもあった曼殊院の是算が別当職に任じられ、以後明治の神仏分離に至るまで、北野の別当職は曼殊院が兼務してきた。主要な祭祀の際には、左図のように延暦寺、曼殊院をはじめとする山門衆の僧侶らが、参列し法会を執り行っていた。

そもそも比叡山延暦寺の十三代天台座主尊意僧正は、若き

日より菅原道真公（菅公）が仏教の師と仰いだ方であり、生前からのご縁があった。また根本縁起の中にも、生前と薨去後三場面にわたり、菅公と天台僧侶が登場する場面が描かれる。当宮には他にも、菅公御筆、尊意僧正旧蔵と伝わる『紺紙金字法華経開結共』や比叡山に伝わっていた『御神影』等が御神宝として伝わっている。

御神宝が物語る北野天満宮と延暦寺の深いご縁をここではご覧いただきたい。

*太刀鬼切丸に関する記事の続きは、次号以降に掲載予定です。

嘉永五年（一八五二）江戸時代最後の九五〇年萬燈祭の様子

当宮旧蔵のこの正遷宮の錦絵（図一）と絵巻（図二）には、現在では失われた神仏習合形式での祭祀の様子が生き生きと描かれている。

幕末の混乱の中で文書が失われ、当宮には残念ながらこの式年大祭の史料は残っていないが、延暦寺の『天台座主記』の中には「同月廿二日天満宮八百五十回神忌「原文ママ」於北野聖廟被行法華八講竝：導師白毫院権僧正覚洞曼殊院門室依爲御無住御名代也 山門屈請十口参動…」との記述があり、山門の僧侶が菅公薨去九五〇年御忌である式年大祭に参列し、法華八講を行ったことが記されている。

※正遷宮とは、御祭神を一定期間仮殿に遷し、その間に御本殿を修繕した後、再び御本殿にお帰り頂く祭儀。

① 正遷宮御図

江戸時代最後の九五〇年萬燈祭の様子を描いた錦絵。御本殿修繕の間、御仮殿（法華三昧堂）にお移りいただいた御祭神を御本殿に改めて迎える場面である。

② 勅使

朝廷からの勅使一行が見守るなか、御仮殿を御祭神の御神霊をのせた神輿が出発する。

③ 宮仕が担ぐ神輿

北野天満宮の社僧である宮仕が御神霊を御本殿まで遷す役割を担う。

④ 狛犬

御神霊の先導の中に狛犬の姿が見られる。遷宮の際にはこのように狛犬も遷されたとの記録が残っている。



宮仕が担ぐ菅公の御神霊を奉安した神輿

神供を捧持する宮仕

楽人

山門より列座し法会を主宰する導師一行

950年萬燈祭絵図



図1 正遷宮図錦絵

- ⑤ 山門衆僧
山門の僧侶が、神輿の先導を担い、また御本殿内部で御祭神を出迎える役割を果たしていたことがわかる。
- ⑥ 楽人
楽人が道楽で御祭神の行列を先導している。
- ⑦ 舞楽
廻廊に楽所も設けられ中庭で舞楽が奉納されている。
- ⑧ 武家衆・奉行
東廻廊には武家衆の見所が設けられ、御本殿内部にも奉行が参列する様子が見られる。
- ⑨ 篝火
境内には篝火がたかれ、神事が夜に行われていたことがわかる。
- ⑩ 御導師
法会を主宰する導師。山門の中でも特に高位の僧侶がこの役割を担っていた。

図2 正遷宮図絵巻



朝廷からの勅使一行

山門（比叡山延暦寺）の僧侶

舞楽の舞人

楽人

北野天神縁起絵巻に見る
天台僧侶と菅原道真公

《北野天神縁起絵巻（承久本）》巻一第 二段

顕揚大戒論序執筆



筆した場面が描かれている。以来、天台宗の僧侶は、その序文を「権者の製作、現人神の筆作」と称え伝えるほどであったとされる。

《北野天神縁起絵巻（承久本）》巻五第 二段

石榴天神

巻五第三段では、菅公薨去後、幾ばく



《紺紙金字法華経開結共》

菅公御筆、尊意僧正旧蔵と伝わる法華経八巻に、開経と結経を加えた十巻本。藍で染色した紺紙に、金泥で法華経が写されている。元和四年に加賀前田家第三代前田利光公により当宮に奉納される際に付された箱書によると、菅原道真公御筆、尊意僧正旧蔵で代々梶井門跡（天台三門跡の一つでのちの大原三千院）に伝わってきたとされている。軸には北野天満宮の御神紋、前田家の家紋でもある梅鉢紋の意匠が螺鈿であしらわれた豪華な装飾経である。



《御神影》遺教院本鎌倉—南北朝時代

北野天満宮に根本御影として伝わる御神影（束帯天神像）と瓜二つの御神影。延暦寺東塔南谷の僧坊遺教院鎮守の天神社に伝来し、大正十三年、当宮に

《幕末の北野祭再興と御菓子神饌復元》

幕末の元治元年（一八六四）、北野一社中が丸となり、北野祭再興が試みられた。文書類を調査し、朝廷と何度も折衝し、詳細な記述をもとに応仁の乱以前の形を志向した勅祭北野祭が、「北野臨時祭」として再興された。

その後臨時祭は毎年執り行われ、明治三年には、北野臨時祭改め、例祭としての「北野祭」が勅祭として斎行されたことが『明治天皇記』に記録されているが、維新後の混乱の中、その北野祭も明治五年を最後に再び停止されてしまった。

孝明天皇・明治天皇より下賜された宣命

北野の歴史や不安定な世相に言及されたのち、鎮護国家の思想に基づき北野祭の再興を宣言されている。その後も、明治五年にいたるまで北野臨時祭に宣命が下賜された。

北野臨時祭再興の翌年、慶応元年（一八六五）に



当宮に納められた宣命

描かれた神饌図には、北野祭の折に供えられた御菓子神饌が描かれている。檜の折にそれぞれ干菓子と饅頭を敷き詰め、当宮の御神紋である松と梅の造り物を配した対となる御菓子神饌を

も経たないうちに、延暦寺十三代天台座主の尊意僧正の所に菅公の霊が現れた場面が描かれている。菅公は自らの恨みをはらすため、尊意僧正に法力を用いないで欲しいと訴えたが、尊意僧正は、勅宣によりその申し出は受け入れられないとしたため、菅公の霊は口に含まれた石榴を妻戸に吐きかけて退出し、石榴は火災となって妻戸に燃え移ったとされる、いわゆる石榴天神の場面である。



《北野天神縁起絵巻(承久本)》巻五 第五段 鴨川洪水



巻五第五段では、菅公の霊が雷神となって清涼殿に落雷させた時、比叡山の天台座主尊意僧正が宮中に参内した様子を描いている。その際、雷雨により大洪水と化した鴨川を、尊意の法験により水を引かせたという尊意の鴨川渡水の場面が描かれている。

奉納された。当宮と延暦寺との関係性を象徴する二幅といえる。



根本御影 北野天満宮 鎌倉時代



御神影 遣教院本 鎌倉—南北朝時代

天台座主一品尊真親王(一七四四—一八二四) 御揮毫の当宮東門《天満宮扁額》

現在も東門外鳥居にかけられている扁額。中世から近世においては、この東門こそが参拝順路の起点となっていた。参拝者はみなこの天台座主による扁額を仰ぎ見ながら、天満宮の鳥居をくぐり参詣していた。



復元し、この度の御霊会でお供えた。

御菓子神饌の復元にあたっては有職菓子調進所老松が、彩りや素材、意味づけなどを丹念に吟味し調製した。特に干菓子には当宮に関わりの深い梅、紅葉、菊に加え四角の干菓子には厄除の願いを込めて小豆をのせるなど、試作を重ねる中で様々に工夫を凝らし、令和の御霊会再興に花を添えた。



御菓子神饌を調製する老松若主人 太田侑馬氏



復元した御菓子神饌 厄除の願いも込められている



『神饌図』の中の御菓子神饌の図 慶応元年(一八六五)

校倉で発見の洲濱鶴の御箸・御箸台

すはまつる おはし おはしだい

御手洗祭で百五十年ぶりお供え、かつての熟饌も復元



洲濱鶴の意匠 御箸台と御箸

恒例の御手洗祭が八月七日午前十時から御本殿で斎行され、昨春秋、当宮校倉で発見された熟饌のために用いられた洲濱鶴意匠の御箸台と御箸を約百五十年ぶりに御神前へお供えし、これに合わせた熟饌「真桑瓜」も復元させ、祭典を執行した。

この洲濱鶴意匠の御箸台と御箸は銀製で、鶴の羽の上に御箸を置く形に造られ、三座分見つかった。江戸後期から明治にかけて調製されたと思われる「神供用 御箸 御箸台」と墨書した木箱に納められ、長年使用された形跡がなかった。

洲濱鶴意匠の御箸台は、平安時代後期に編まれた宮中や貴族の調度などの記録『類聚雑要集』の中にも図示されており、最も格式高い御箸台の形の一つとされる。

御箸は神饌と共に御神前にお供えされたものであり、この御箸は煮炊きした熟饌用の神饌に用いられたものと思われる。神饌はかつては熟饌が主流であったが、明治八年の式部寮通達により、全国神社の祭式が統一され、原則熟饌も廃止されることになり、生のまま素材そのものを献供する生饌（丸物



御手洗祭でお供えされる神饌

神饌）に改訂され、一部の神社を除き現在に至っている。当宮でも明治初年の北野臨時祭の折に、神饌に關し「生饌で可」この記述が残り、それ以前は熟饌が主流であったことが推察される。

当宮では二月二十五日の梅花祭における梅花御供、六月十日の青柏祭、十一月三十日の赤柏祭などでわずかに熟饌を供える祭典が残っているが、大半の祭典では生饌を供えて斎行しており、御手洗祭でも熟饌は供えられていなかった。

祭についての書付がこの程見つかかり、それをさしとほし、それにそうめんをかくる…とした記述と簡単な図があり、かつては熟饌が供えられていたことが明確に判明した。

昔公千百二十五年半萬燈祭に向けて様々な旧儀の復興を目指している当宮では、古記録に残る熟饌を試行錯誤の末に復元し、本年の御手洗祭で洲濱鶴意匠の御箸台・御箸とともに目出度く御神前にお供えすることが出来たのである。



復元された特殊神饌「真桑瓜」



令和の北野祭 一連の神事を締めくくる 京の伝統の秋祭り 瑞饋祭ずいきまつり

コロナ禍の最中、渡御列なしの居祭
すべての神事を御本殿で厳粛に斎行
「ずいき御輿」は西廻廊に奉納し展観



本年は居祭として御本殿にて神幸祭及び還幸祭当日祭を斎行



瑞饋祭献茶祭 表千家三木町宣行宗匠ご奉仕



甲御供奉饌



御本殿西廻廊に奉安されたずいき御輿

昨年より再興した「令和の北野祭」の最後を締めくくる瑞饋祭を十月一日から五日まで斎行した。今年には新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、沿道の住民・奉仕者の健康と安全を守るため、一日と四日の渡御列は中止とし、期間中の全ての神事は御本殿において滞りなく執行した。

本祭は御鎮座の往時を偲び、秋の実りに感謝する祭りとして知られているが、神幸祭（一日）と還幸祭（四日）に見られる豪華絢爛、かつ雅な渡御列は、応仁の乱で途絶えたかつての勅祭北野祭の祭列が、時の流れによって遷されたものであった。

七年後の千百二十五年半萬燈祭に向け、かつての北野祭を蘇らせるため旧儀の再興に務めている

折だけに渡御列の中止は忍びないが、沿道は多数の市民や観光客で密集、また祭礼奉仕者も多人数に及ぶため、コロナ禍の中での安心安全を守るためにやむなくとられた措置であり、七月に開かれた北野天満宮氏子講社の常任理事会で了承された。

渡御列の巡行は中止となったものの一日神幸祭当日祭、二日献茶祭（表千家三木町宣行宗匠ご奉仕）、三日甲御供奉饌、四日還幸祭当日祭、五日后宴祭をいずれも御本殿で厳粛に斎行した。

また、西之京瑞饋神輿保存会の人々によって調製されたずいき御輿も、今年は一日から四日まで本社西廻廊に奉納展観された。





『天神さまのご加護の下、 コロナ禍に負けず 身体健康と学業成就を』

修学旅行のキャンセルや延期の学校の
安泰を祈願し、御神札送付
「お札やお守りを授かりたい」
との要望も相次ぐ



4月から7月にかけて修学旅行生の姿が見られなくなった境内

修学旅行の聖地として、当宮には毎年全国各地から数多くの修学旅行生が訪れる。受験を控えた生徒たちひとりひとりが御本殿に昇殿参拝して「志望校に合格しますように」「学力が向上しますように」と祈りを捧げ、春から初夏にかけてだけでも凡そ三十万人もの修学旅行生が訪れる。

しかし今年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、春先から夏にかけての予定はほぼ全面的にキャンセル、あるいは秋への延期が相次いだ。このような事態を重く受け止め、当宮では事前申し込みを頂いていたにもかかわらずやむなく中止となった学校に対して、天神さまの御加護の下、日々勉強に勤しんで頂くようお願いを込めて、クラス一同の健康と学業成就・入試合格の御祈禱を齎行し、その証としての勸学守護の木札を送り届けた。

中学生を中心とする修学旅行生の数は年々増加しており、当宮は修学旅行で必ず訪れる京都の神社として全国的に信仰されている。それは単に御本殿前で手を合わせてお参りするのではなく、クラス単位あるいは班単位に分れて御本殿に昇り、御祈禱を受ける「特別昇殿参拝」が主であることを見ても、その崇敬の篤さがみとれる。

修学旅行は京都の行楽シーズンに併せ、春と秋に集中するが、春は特に新学年となり、気持ち新たに学業と受験合格を志す中学三年生の参拝が多い。

昨年の例をみても、四月から七月にかけて四カ月でおよそ八百校、約二千クラスの生徒が昇殿参拝。一日で九十クラスを記録する日もあるなど、朝から夕刻まで御本殿前や授与所は参拝の順番を待つ修学旅行生で賑わいをみせていた。勿論、昇殿参拝と同じく自由参拝も多く、タクシーでの班別参拝など非常に多い。



牛を撫でる生徒たち



御本殿での御祈禱は生徒同士の距離を確保し、クラス数を制限している



例年、全国各地より参拝に訪れる修学旅行生

の状況を受けて「生徒たちは北野天満宮への参拝を楽しみにしていたのに突然のコロナ感染症の拡大で中止となり大変残念がついています。収束の暁には改めて訪れます」という言葉も数多く寄せられました。

当宮としては、心新たに期待を膨らませ、京都旅行を楽しみにする多くの修学旅行生が来宮されるのを心待ちにしていただけに、中止やキャンセルが相次ぐ今回の事態は、非常に残念であり、今は参拝出来ないが、何か生徒皆様の心の励みに繋がるような手立てはないかと神社で検討を重ねていた結果、修学旅行を予定されていたクラス毎に順次御本殿において御祈祷を斎行し、生徒皆様の健康と安全、学業成就を祈願。そして、「一刻も早く新型コロナの脅威が収束し、秋には改めて参拝できますように」との手紙を添え、天神さまのご加護の下で勉強やスポーツに勤しんで頂きたいとの願いを込めて勧学守護の木札を送り届けた。

戻り始めた修学旅行 万全のコロナ対策を講じお迎え

四月から続いた自粛生活も、七・八月になりコロナ禍の収束が見通せないものの、政府のGo toトラベルキャンペーンなどの影響もあり、徐々に社会活動が戻り始め、感染対策との両立を図ることで日常を取り戻す動きが開始された。これに呼応するように、参拝がキャンセルになっていった学校から再度の予約を希望する問い合わせも増え始め、九月に入ると、関東圏内からの修学旅行参拝が少しずつ増え、ようやく境内に学生たちの姿を目にすることが出来るようになった。

訪れた学校に対し、御本殿では消毒液や生徒同士の座る距離を空けるなど、密にならないように対策を講じ、授与所では飛沫防止のビニールなどを用いて安全対策に努めている。

また修学旅行が取りやめになり、お札やお守りが受けられなかったことで、各地の生徒さんや保護者、学校関係者から「授かりたい」との声が相次いで寄せられており、そうした申し出にも順次対応を行っている。



秋になり、ようやく戻り始めた修学旅行生



授与所には飛沫防止のシートを設置し、巫女はマスクを着用して対応

コロナ禍の収束を願い
可愛らしい花々を浮かべ
参拝者に癒しを
花手水を設置
祓いと清めの重要な役割を
担ってきた北野の地



コロナ禍の終息を願う花手水

木々の葉が青々と輝く爽やかな季節となった六月。参詣者や地域の方々に、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束と、初夏の癒しとして、心が豊かになるひとときを感じて頂けるように当宮では六月一日から境内楼門手水舎に花

手水を設置した。
手水は神社参拝の際に心身を清め、清々しい心で御神前に赴くための禊の儀式として行われる所作だが、その形式は必ずしも水だけに限られたものではない。例えば神職が祓えて用いる幣、あるいは火で祓う、あるいは塩で祓うなど、その方法は様々だ。古くよ



御神紋である星梅鉢を花で表現



五山の送り火



毎回10種以上の花を浮かべた意匠

り水を使わず、自然の草花などを置いて手水の代わりとするものもあり、花手水も清めの所作のひとつであると言えらるだろう。
また当宮は平安京の北西、天門の守護神として、古くより祓いと清めの重要な役割を担う社であった。境内西側に流れる紙屋川は、天皇即位にあたる重要神事「荒見川祓」に先立つ祓えの儀式「荒見川祓」の場であり、境内東側には、古く西大宮川（松葉川）が流れ、北野境内で清められた西大宮川の水は大宮御所の御用水に用いられたと伝わる。つまり当宮は清き水に守られた聖地なのである。

JR東海の「そうだ京都、行こう。」キャンペーンとも連動した本企画。初夏の参詣者に向けて、心の癒しを提供するக்கும்に、昨今



紫陽花

の新型コロナウイルス感染症の影響により、長らく続いた自粛生活がようやく緩和の方向に向かう中、先ずは地域の皆様や地元の皆様が参拝にお越しになり、境内の爽やかな自然と可愛らしい花手水をご覧頂く中で、無病息災と平穏な日常が早く戻ればとの願いもこの花手水には込められている。

また、花手水のデザインについては、天神信仰をあらわす全体的なモチーフと、「隠れ天神」として、花の中に御神紋である星梅鉢を作るなどの遊び心を取り入れ、当宮ならではの花手水を展開した。当初は六月一か月間のみ企画として考えていたが、ツイッターやインスタグラムでの発信に対する反響、参拝者からの要望の声が多数あったことから、夏から秋にかけて継続して行う事とし、「北野天満宮の花手水」として、引き続き参拝者を迎えている。

「安心・安全 京都の旅」 刀剣ファン必見 伝説の太刀「鬼切丸(髭切)と北野天満宮ツアー」開催

種々の諸相を持つ天神信仰を知り、
刀剣をきっかけに、
天神様と御縁を結ぶ

新型コロナウイルス感染症の拡大やその影響に伴う社会情勢に鑑み、当宮では春先から多数の参拝者が集まると予想される文化行事を軒並み中止あるいは縮小してきた。

しかしながら、感染対策を講じた上で社会経済活動も再開させる動きが始めてきた中で、引き続き健康と安全に配慮し、安心して京都の歴史・文化に触れてもらおうと、京都市観光協会が主催となり企画推奨している「安心・安全な京都の旅」に当宮も参画。七月二十五日から九月末まで毎朝、人数を極力絞った特別拝観ツアーを実施したところ上々の人気となった。



宝物殿の様子

「北野天満宮の信仰や創建由来、御社殿の説明を聞きながらじっくりと拝観したい」という声にも応えたもので、三つの密を避けながら特別な体験をして頂くとの思いから、完全事前申込制で一日最大十五人に絞った特別拝観とし



刀剣ファン必見 伝説の太刀『鬼切丸 別名 髭切』

数一杯の十五人参加の日も多数見られた。

連日、集合場所の文道会館前にて参加者は検温と手指の消毒を徹底して頂き、必ずマスク着用の上で実施。楼門・絵馬所・三光門・御本殿など境内各所を巡りながら、種々の諸相を持つ天神信仰や御祭神など、北野の歴史について神職が丁寧に説明した。

さらに本ツアーの見所である刀剣については、閉館中の宝物殿をツアー参加者のみの貸切拝観とし、『鬼切丸(別名 髭切)』(重文)を筆頭に、豊臣秀頼公御奉納の太刀『國広』(重文)、加賀藩前田家御奉納の名刀の数々。国宝『北野天神縁起絵巻』(平成記録本)など当宮ゆかりの御神宝も惜しみなく展示。普段は混み合う宝物殿もこの企画では、ゆっくりじっくり拝観できるという事で、参加者は「解説を聞き



国宝御本殿を紹介



境内案内の様子

て実施した。七月二十五日から始まった本ツアー。八月は夏休み中という事もあり、参加者の中には小学生を連れた親子や学生といった面々も見られた。九月に入っても順調に予約は入り、制限人

ながら境内を巡った事で、今まで知らなかった神社の事を知ることができた。「北野の歴史や天神信仰のいろいろな面を初めて知った」「名刀を間近に鑑賞し感動した」など好評の声が聞かれた。中には二度三度と繰り返し参加した人もあった。

新型コロナウイルス感染症の影響により神社への参拝者が激減する中、当宮でも新たな対応を考えていかなければならない最中で始めた特別拝観ツアー。結果、二ヶ月間に亘り続けた本企画への予想を上回る反響、そして当宮の新たな取り組みに対しての温かい言葉を多数頂き、神社としても、これからの新しい参拝の形を構築していく上で大変貴重な行事となった。

コロナ禍の中で自粛が続く、人と人との関係やコミュニケーションが希薄になりつつある社会の中で、刀剣をきっかけに当宮に足を運んで頂き、天神様と御神縁を広く結んで頂いたことが、本ツアーを開催して得た何よりの収穫であった。



天神さまと私



第二百五十七世天台座主

森川 宏映 猥下
もりかわ こうえい



探題大僧正 森川宏映師 略歴

◎ 比叡山延暦寺住職

大正十四年	十月二十二日	出生(愛知県春日井市)
昭和十一年	六月	出家得度
昭和二十五年	三月	京都大学農学部林学科 卒業
昭和二十五年	八月	延暦寺一山眞藏院住職 拝命
昭和三十三年	二月	延暦寺管林課長 就任
昭和三十九年	三月	延暦寺副執行管理部長 就任
昭和四十年	六月	(以降)副執行管理部長・総務部長歴任)
昭和五十二年	四月	天台宗宗議会議員 就任
平成三年	四月	延暦寺学園学園長 就任
平成五年	四月	大僧正 補任
平成六年	十一月	延暦寺学園学園長 就任
平成七年	十一月	望振講 補任
平成十一年	十月	奥比叡観光・奥比叡参詣自動車道社長 就任
平成十四年	四月	京都毘沙門堂住職 拝命
平成十四年	四月	天台宗布教師(一等級)
平成十四年	四月	天台山布教師(一等級)
平成十五年	二月	日講 補任
平成十六年	九月	延暦寺一山眞藏院住職 拝命
平成十八年	十月	一開を照らす運動副会長 就任
平成二十四年	六月	天台座主 上任
平成二十七年	十二月	延暦寺住職 就任
平成二十八年	一月	天台宗国際平和宗教協力協会総裁 就任
平成二十八年	一月	延暦寺一山眞藏院 住職(平成一八年一月二十二日)
平成二十五年	八月	延暦寺一山眞藏院 住職(平成一八年一月二十二日)
平成二十七年	十一月	京都教区毘沙門堂門跡 住職(平成一八年十一月十九日)
平成二十七年	十一月	比叡山延暦寺 住職(現職)
平成二十五年	九月	延暦寺一山正観院 住職(現職)

応仁の乱で一度は途絶えた北野祭に伴う「北野御霊会」が九月四日、当宮と天台宗総本山比叡山延暦寺によって約五百五十年ぶりに再興された。今号は再興に当たって並々ならぬご助力を賜った第二百五十七世天台座主森川宏映猥下の横顔を紹介する。

(取材・構成 編集部)

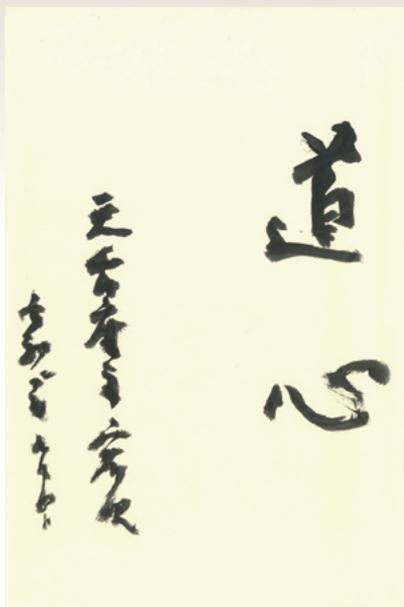
御神前で菅公と伝教大師に乞われた疫病退散の祈願

「天満大自在天神 聞法随喜の徳を輝かし 暗夜の群生に光を与えたまえ 伝教大師尊霊 暫く浄域を去って此の会に降臨し 法孫が仏事を納受して冥加を垂れたまえ 重ねて乞う 天下泰平 万民快樂 神仏擁護 一乗国土 信心衆生 善願成就 厄難消滅 心身安穩 疫病退散……」

「北野御霊会」における祭文が天台座主猥下によって読み上げられ、その力強い声が御本殿内に響いた。「御祭神の菅公は讒言により大宰府に流され薨去、京の人たちによって御社殿が造営され、祀られた御霊は京の守護神となり、学問の神として今日に神恩を施し給う」と述べられた後、菅公と天台宗の開祖伝教大師に対し国家安穩と疫病退散等の諸祈願を乞い願われたのだ。新型コロナウイルスの蔓延が市民生活を圧迫し、一日も早い収束が願われている中だけに、まさしく神仏習合の旧儀再興を目指す「北野御霊会」に相応しい祭文である。

大正十四年十月生まれの九十四歳。当宮は明治初年の神仏分離までは延暦寺の管轄下にあり、曼殊院門跡が別当を務めてきた神仏習合の神社で、御本殿で祈りを捧げられた天台座主としては最高齢とみて間違ひなからう。

祭典を終えられた後、「神仏ともに拜むということは尊いことです。それが北野天満宮は応仁の乱で途絶えたということでしたが、宮司さんの篤い想いによって五百五十年ぶりにこうして再興されました。大変有難いことであり、今後もこの御霊会を続けて頂きたいと思っています」と感想を述べられた。



数々の延暦寺の役職を歴任

天台座主猊下は、天台宗の寺の長男として生を受け、小学校二年生で得度。得度の授戒師だった赤松円麟大僧正の山に対する思いを受け継がれ、京都大学農学部林学科に学ばれた。卒業後は三百日の厳しい回峰行もされ、延暦寺管理部に所属して比叡山の山林管理に当たられた。昭和三十一年、大講堂が火災によって消失したが、その再建、奥比叡ドライブウェイの開設、横川中堂の再建など、そのすべてに関わられている。「総本山の営繕管理を今日の軌道に乗せたのは間違いなく森林天台座主猊下だ」と周囲からいわれる所以である。「好きな仕事ばかりではありません。山林の用地買収などはいま思っても嫌な仕事でしたが、誰かがやらねばなりません。すべて一生懸命やりましたよ」と当時を振り返られた。

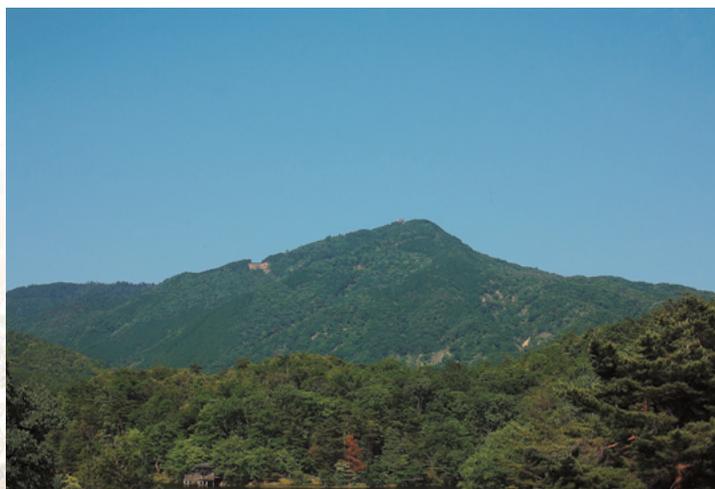
昭和五十二年から十六年間に、宗門校の比叡山中学・高校の校長（その後の三年間は学園長）も務められた教育者でもある。

「学校長をせよと言われた時、私のライフワークは森林です」と一度は断りましたが、結局引き受けざるを得ませんでした。毎朝の朝礼では訓話をするのが役目であり、その時々に応じた話題を探すのに苦労しましたが、訓話の最後はいつも伝教大師の教えである『山家学生式』で結んだという。

『山家学生式』は「国宝とは何物ぞ、宝とは道心なり、道心有るの人を名付けて国宝と為す。故に古人のいわく、径寸十枚、是れ国宝に非ず、一隅を照らす、此れ則ち国宝なりと。……」という、いわば天台宗の最も重要な教えである。生徒は毎日、伝教大師の教えを学んだことになる。

「一隅を照らす」人を世に送り出す喜び

「あらゆる場所において一隅を照らす人こそ国宝である」という伝教大師の精神を現代に生かして平和な社会を築こうという天台宗の「一隅を照らす運動」は、発足五十周年が過ぎたが、その総裁も務められている。「学校の卒業生が医者になり、今、医大で倫理学を教えているが、医者は病気を治すだけでなく人間的にどうあらねばならないか、を教える時、講話での話が役に立つと言っている」という。「先日別の卒業生で国立大の教授になった人のお母さんがやって来られ、この学校に行か





延暦寺 根本中堂 (国宝)



天台座主猥下と曼殊院門跡 藤門主

せて良かった」と喜んでおられた」と嬉しそうに話された。

平成十一年から七年間、毘沙門堂門跡（京都市山科区）の門主を務められ、本堂修理や写経一万巻の経塚の建設などに当たられ、その後、経歴法階である探題としての教学を修められてきた。五年前の十二月、第二百五十六世天台座主の半田孝淳猥下のご遷化に伴って、直ちに天台座主に就かれた。天台座主は総本山延暦寺の住職であり、宗祖伝教大師からの法脈を相承し、宗徒・檀信徒の敬仰する天台宗の信仰の象徴的存在である。空座は許されない。

三十三年前、「比叡山宗教サミット」が開かれたのを契機に毎年延暦寺では宗教と宗派を超えた「世界平和祈りの集い」が催されており、天台座主就任以来、集いでは世界平和を祈る祈願文を読み上げられている。イタリアでの宗教サミットにも行かれたし、ローマ教皇とも会われている。平和に対する思いはひときわ強い。

当宮では七年後に菅公千二百五十五年半萬燈祭を迎えるが、天台宗では一足早く来年伝教大師の一千二百年大遠忌法要がある。「お経を唱えて終りというのではない。山家学生式“にある”一隅を照らす“人間をつくりたいという伝教大師の志を再確認することが一番肝要なことだ」と語気を強められた。

北野御霊会の再興については、コロナ禍による密集を避けるため、外部への広報は自粛していたが、祭典終了後、どこで聞きつけたのか天台宗の信徒らしき人が何人も集まり、御本殿から出られる天台座主猥下に手を合わせる姿が印象的であった。

「北野御霊会再興が神仏への祈りのきっかけになれば」

祭典終了後、文道会館内の控室で宮司が「天台座主猥下にお越し頂いて念願の神仏習合による北野御霊会が再興できて本当に感動しました。祭文の中にも猥下の想いが込められており、胸がたまる思いでした」と挨拶すると、天台座主猥下は「学問の神様ということで、子どものころは親に連れられよく天満宮さんにお参りしましたよ。きょうは久しぶりです。なかなかこういう機会はありません。今後ぜひ続けてほしいですね」と北野御霊会がこの先も続くことを願っていた。

改めて五百五十年ぶりに再興された北野御霊会について、天台座主猥下に感想を伺うと「北野天満宮と合同でコロナ禍の収束を祈願出来、大変有り難かった。昔ほどの家庭でも当たり前のようにお寺や神社で手を合わせたもの。今は核家族の所為もあって家に仏壇や神棚がないところもあり、子どもが親や祖父母の手を合わせている姿を見ることがも少なくなっている。これではいけない。神仏習合というこの度の北野御霊会が、人々の祈りのきっかけになってくれれば嬉しく思う」と締め括られた。



第一期 東廻廊御屋根修復工事了(平成30年11月)

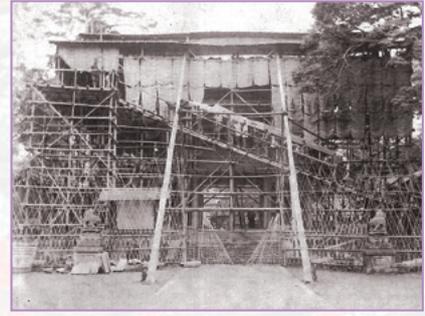
菅公千百二十五年
半萬燈祭に向けて
御社殿修復、
境内整備が愈々本格始動



千百二十五年半萬燈祭に向けて、本格的な境内整備が始まっている。去る平成二十九年十月、楼門西側一帯に「文道会館」が完成。これは天神信仰の更なる昂揚を目指す教学的な活動を行う場として、また御祭神菅公の御心が宿る、伝統芸能をはじめとする様々な文化発信基地として活用するため建設した文化施設であり、菅公千百二十五年半萬燈祭に向けた境内整備事業の一環として竣工したのは記憶に新しい。半萬燈祭まで七年をきり、一昨年度よりは御社殿の御屋根改修工事など、愈々御社殿・境内整備も本格的に始動し始めた。

第一期工事として平成三十年度は、重要文化財指定の東西廻廊御屋根のうち東廻廊檜皮葺を、続く翌令和元年度は第二期工事として西廻廊檜皮葺をそれぞれ修繕。いずれも文化庁の国庫補助を受け、募財事業は当宮崇敬会である天満宮講社の事業として執り行い、総事業に対する募財活動を五か年計画にて執り進めている。第三期を迎える本年度は、国宝御本殿内部(前拜殿・拜殿・中段・石の間)の床板や柱等の修繕に加え、御本殿廻りの透塀ならびに後門檜皮葺御屋根の保存修理に着手。連綿と受け継がれてきた御社殿を後世に遺すために様々な整備事業を進めている。

萬燈祭で行われてきた境内整備



楼門建築工事中（明治30年9月撮影）



御本殿御屋根の葺き替え工事（明治35年撮影）



宝物殿新築工事（昭和2年撮影）

菅公を御祭神に奉祀する当宮では、菅公薨去後五十毎に大萬燈祭、二十五年毎に半萬燈祭と称する最も重要な式年大祭を斎行し、御祭神の御神慮をお慰め申し上げてきた。また式年大祭にあわせて御社殿の大規模な修造並びに境内維持整備を行い、平安時代より受け継がれてきた御社殿群をはじめとする境内神域を後世に継承し、北野の歴史・文化・伝統を未来へと紡いできた。

明治三十五年に斎行された菅公一千年大萬燈祭では、その記念事業として御本殿御屋根皮葺の葺き替え工事は勿論のこと、楼門も事業の一環として建設され、その模様の写真が今も当宮に残っている。

続く昭和三年に斎行された一千二十五年半萬燈祭では、主要記念事業の一つとして現在の宝物殿が建てられ、桃山文化様式の国宝御本殿との調和を図るため、宮殿造の様式を取り入れ、当時の建築技術と匠の技を結集した建設となった。当宮にとつて萬燈祭は、その時代の世情に鑑み、求められる要請に応えながら、天神様の御神域たる境内を維持発展させ、天神信仰を更に発揚させていく契機となる一大事業である。



第二期 西廻廊修復工事了（令和元年11月）



躰阿弥銘が刻まれた御本殿廻廊金具

台風による被害を乗り越えて、美しく甦った御屋根
第一期・二期工事を完遂

令和九年（二〇二七）の半萬燈祭斎行まであと七年。愈々具体的な整備に取り掛かり始めた境内だが、中でも今回の半萬燈祭は、国宝御本殿に連なる重要文化財の東西廻廊檜皮葺御屋根葺き替え工事を中心的な事業として位置付け、万全の態勢で準備を進めていた。しかしながら一昨年京都に襲来した台風十八号・二十一号によって、境内に甚大な被害を受け、とりわけ廻廊は檜皮葺御屋根が大きく剥がれ、一刻も早い修理が求められた。この事態を受け当宮では当初の修繕日程を前倒しし、東西の廻廊檜皮葺御屋根修復に着手。平成三十年度に東西廻廊、令和元年度に西廻廊の修繕工事が無事完了した。

「京都飴師の最重要工房」躰阿弥が
手掛けた御本殿金具

東西廻廊御屋根の修理過程においては、飾金具の中から「躰阿弥銘」が新たに発見され、文化財的に非常に興味深いものであることが判明。銘は三光門に接する東西廻廊の破風飾りと懸魚六葉の部分に「丸太町高倉東江入 飴師 躰阿弥 吉兵衛」という文字が彫り込まれ、破風の拝み裏に寄進者（若狭屋）とその家族名、年号嘉永三年（一八五二）、仕様（角金物減金ニテ）などが蹴り鑿で彫られていた。飾金具にこうした彫銘があらわされていることは極めて希にして信仰の深さが伺える。躰阿弥は桃山時代から江戸時代にかけて「京都飴師の最重要工房」と謳われた人物。織田家、豊臣家に仕え、江戸時代には、京都の筆頭飴師としてその名を馳せた。躰阿弥銘は天保六年（一八三五）に当宮に奉納された御本殿廻廊の釣燈籠にも刻まれている。

第三期整備事業

京都府文化財保護課の指導のもと、
国宝御本殿内部修繕工事
令和の御代に、豊臣秀頼公御造営
の御本殿が美しく蘇る

変遷する国宝御本殿

天曆元年（九四七）の創建後、天徳三年（九五九）に右大臣藤原師輔卿により神殿を増築する大規模な御社殿の造営が行われた。その後天延元年（九七三）以降数度の火災に見舞われ再興を繰り返してきた御本殿。永延元年（九八七）一條天皇が北野社に幣帛を奉られ、初めて北野祭を官祭として斎行されたこの年にも御社殿の改造が行われたとの記録が残る。

以来、皇室と朝廷、足利將軍家ほか、各時代において手厚い崇敬と保護を受け続けてきた。

現在の御本殿は、慶長十二年（一六〇七）に豊臣秀頼公が造営。片桐且元が普請奉行を務め、豊臣家の天神崇拜の象徴として、豊臣家の権威と莫大な財力をかけて修復を手掛けられ、御本殿はじめ摂末社に至るまでの御社殿群が新たに造営された。

近世の修理

当宮に残る棟札によれば、寛文九年（一六六九）、元禄十三年（一七〇〇）、元文元年（一七三六）、明和七年（一七七〇）にそれぞれ修理が行われている。またこの間も菅公薨去後、五十年毎の大萬燈祭の折には、御屋根の檜皮葺葺き替えや部分修理を繰り返し、御社殿・境内保持に努めてきた。

記憶に新しいところでは、平成十四年の菅公千百年大萬燈祭では御本殿大屋根総檜皮葺を全面改修。美しく蘇らせた御社殿を現在に伝えている。

御本殿内部の床板などを全面柿渋に塗り直し
現代にあわせた祭典形態を考え立礼祭祀に移行



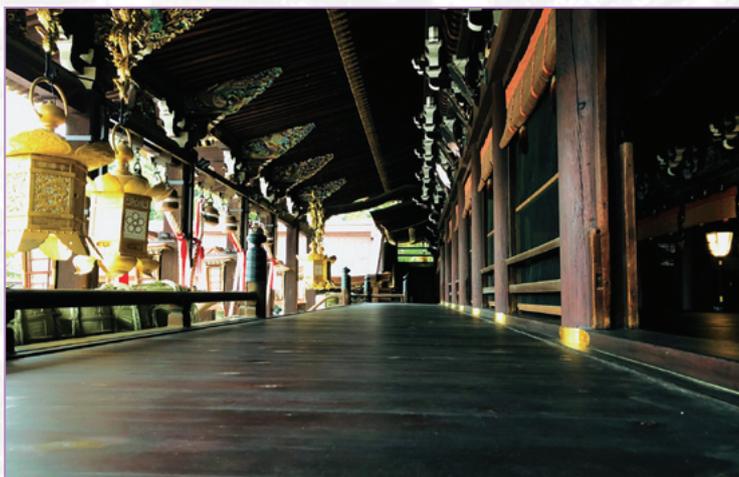
柿渋により塗り替えられた拝殿

当宮の御社殿の特徴は、御本殿前に拝殿を置き、本殿と拝殿を床の低い石の間で連結をしいわゆる権現造の特色と、さらに御本殿横に脇殿、拝殿両隣に楽の間を付属させた複雑な構造である。斬新な社殿構造は後の神社建築に大きな影響を与えたことされ、徳川家康公を奉祀する東照宮御本殿の様式が、当宮御社殿をモデルに造営されたという話は専ら有名。北野天満宮の御本殿はその壮大な御屋根の特色から八棟造と称する社殿様式をとっているが、権現造の祖であることは間違いない。

そのような重厚な御本殿も、月日の流れと共に傷みや破損が見られるようになり、この第三期工事では、京都府文化財保護課や識者らの協力・指導のもと、前拝殿・拝殿・中段・石の間の全ての床板を柿渋塗装によって新たに塗り直し、当

時の絢爛豪華な様相そのままに内部景観を更に美しく蘇らせた。石の間に至っては、明治期までの床板構造を復元し、畳敷きから板床に全面改修した。

また祭典や御祈禱時における御本殿参列者への配慮や時代に合わせた祭祀形態を取り入れるため、今改修に合わせ神社本庁の指導を仰ぎ、祭典形態をこれまでの座礼形式から立礼形式に変更した。



前拝殿

千百二十五年半萬燈祭記念事業 御本殿内の修復完了

慶長期の荘厳蘇り、報道陣に公開 床は柿渋基調、獅子・狛犬も往時の姿に



御本殿石の間

七年後齋行の菅公千百二十五年半萬燈祭の記念事業として進められていた国宝御本殿内の修復工事が完了し、七月九日、報道陣に公開された。畳敷きになっていた石の間を板敷きに復したほか、床板全体に天然素材の柿渋を塗って修復。獅子・狛犬も解体修理が施され、御本殿は造営された慶長期の荘厳な殿内が蘇った。

御本殿内は石の間、中段、拜殿と続くが、石の間については江戸時代を経て畳敷きになっていたため今回の修復によって元来の板敷きに復した。これにより本殿内部分はすべて板の間となった。板の間の床板は漆を吹きつけたものとみられてきた

が、調査の結果、漆の成分は検出されず自然成分の素材が塗られていた可能性が高いことがわかった。このため今回の修復に当たっては古くから日本で防虫や防腐剤として使用されてきた天然素材の柿渋を塗布した。その結果、修復なった御本殿内は床・柱とも黒を



記者発表当日には多くの報道陣が取材

基調とした重厚なものとなり、慶長の造営当時を彷彿させるものとなった。また、創建時から御神前の最も近い位置に奉安されていたと伝わる獅子・狛犬（ヒノキの寄木造り）も経年による傷みがあったため、全面解体修理を行い、漆箔・彩色を施し、往時の美しい姿が蘇った。修復なった御本殿内は、四年前から行っている「御本殿石の間通り抜け神事」で参拝者に公開された。千百二十五年半萬燈祭に向けた記念事業として一昨年来、境内並びに御社殿の整備修繕作業が進んでおり、東西両廻廊（いずれも重文）の檜皮葺き屋根の修繕はすでに終わっている。



完成 狛犬全影右側



完成 獅子全影左側



修理前 狛犬全影右側



修理前 獅子全影左側

御本殿廻りの透塀ならびに後門檜皮葺の保存修理に着手傷んだ末社老松社の檜皮葺御屋根も改修今後も境内維持整備に邁進



御本殿裏透塀足場（令和2年4月）

御本殿修復に合わせて、御本殿廻りの透塀ならびに後門の檜皮葺葺き替えも現在進めており、年末には完了の予定である。加えて昨年の台風で御屋根の檜皮葺が剥がれ落ちるなど大きな被害を受けた末社老松社の御屋根についても、仮遷座祭を齎行し、修復が完了している。

半萬燈祭に向けた主な境内社殿整備事業

◎平成二十九年年度
文道会館建設
平成二十七年六月～平成二十九年十月

◎平成三十年年度 第一期整備事業
重要文化財 東廻廊
七月二十三日～十一月三十日

◎令和元年度 第二期整備事業
重要文化財 西廻廊
五月七日～十一月二十八日

◎令和二年度 第二期整備事業	重要文化財 中門（三光門）東透塀	二月十日～三月十四日
	重要文化財 中門（三光門）西透塀	二月十日～三月十四日
	国宝 御本殿 前拝・拝殿 中段・右の間改修	三月十一日～六月十二日
	国宝 御本殿 後門 御屋根檜皮葺改修	四月十三日～十二月十五日（予定）
	国宝 御本殿 東透塀	四月十三日～十二月十五日（予定）
	国宝 御本殿 西透塀	四月十三日～十二月十五日（予定）
	末社 老松社 御屋根檜皮葺改修	四月七日～十二月二十日（予定）
	梅苑南側改修工事	五月一日～十二月二十日（予定）

◎令和三年度 第四期整備事業
（仮称）平安儀式殿建設
令和三年より（予定）

更に本年度以降は、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながらではあるが、京都屈指の景勝地・北野梅苑の景観整備と、（仮称）平安儀式殿建設を進めていく予定だ。今後も国都平安京から連綿と受け継がれる北野の歴史・文化・伝統を未来に伝えていくため、より一層の境内整備に力を注いでいく。



末社老松社御屋根檜皮葺き替え

新型コロナウイルス感染症 の影響続く中、 「新たな生活様式」を模索

▼半年間に亘り開催できない天神市

京都府は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、去る四月十八日から府内全域に緊急事態宣言を発令した。この状況に鑑み、当宮の恒例行事である毎月二十五日の天神市を取り仕切る露店商組合では、地域の方々や参拝者の方々の健康と安全確保を考慮して、天神市における露店の出店を全面中止とした。この中止は四月以降、実に半年間に亘り続いており、現在も再開の目処は立っていない。

京都の伝統文化として天神市と同じく親しまれている東寺の弘法市もこの半年間露店出店を中止しており、京都の二大伝統行事である天神市・弘法市の中止は、現在のコロナ禍の世情を象徴する形となっている。



静まり返った表参道 (4月25日)

世界中に不安と混乱を惹き起こした新型コロナウイルス感染症は、私達の日々の行動に大きな変容をもたらし、感染の収束が見通せない中、政府により「新たな生活様式」が提言され実践例が示された。日常生活はもとより、文化・教育・経済・医療など社会全体が、今後もウイルスとの共存を常に考慮しながら生活を営んでいかなければならない。



御本殿前 感染予防として鈴緒を触れないよう対策



授与所窓口には飛沫対策のビニール

▼開閉門時間を短縮 授与所や御祈祷の対応にも影響

緊急事態宣言発令を受け、「ステイホーム」を合言葉に過したここ数ヶ月。当宮では、開閉門時間と閉門時間を通常時間より大幅に短縮する措置を講じた。合わせて職員勤務は時間短縮あるいは在宅勤務等の対応を行なった。

参拝者はもとより観光客も激減する中、境内に一人の姿の見られない状況に鑑み、各窓口は縮小し、飛沫を防ぐビニールシートを設置。御神前に設置していた大鈴は撤去し、手水舎は感染予防のため使用禁止とした。職員はマスク着用を徹底。御祈祷受付の中止や駐車場の閉鎖など、社務運営にも大きな影響が出ることもなり、苦渋の選択ではあったが世情に鑑みて、神社全体として感染拡大防止と予防のために最大限の自粛を行い、感染症対策を講じた。

▼史跡御土居の青もみじ苑と宝物殿公開を見送り

「京都非公開文化財特別公開」「京の夏の旅」

「京の七夕」など夏の行事が軒並み中止

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、初夏から今夏に企画をしていた行事も立て続けに中止となった。

当宮では、初夏の風物として定着しつつある「史跡御土居の青もみじ苑」を中止。また同時公開を企画していた宝物殿特別展あるいは古文化保存協会主催の「春期京都非公開文化財特別公開」も今シーズンの開催を見送ることとした。

京都市・京都市観光協会主催で毎年行われる「京の夏の旅」や「京の七夕」も、観光客を安心安全に誘致し、いわゆる三密を避ける形での開催は困難と判断し、同市・同協会が今期開催を断念した。

▼コロナ対策と参拝者の安心安全なお参りとの両立

九月に入り、第二波と言われたコロナ感染症も一時期の爆発的な感染拡大からは落ち着きを見せ、感染者数も減ってきたように思われる。秋には、史跡御土居のもみじ苑の公開(十一月一日より十二月六日まで)、宝物殿の特別公開(十月二十五日より十二月六日まで)を予定し、戻りつつある参拝者や観光客をお迎えする予定である。京都府や京都市の行政機関もしっかりとした感染対策を講じた上で、観光や行事の両立を図っていく方向を打ち出している中で、当宮としても、まだ予断を許さない状況であることを心に留め、引き続き万全の対策を行い、訪れた参拝者が安心安全にお参りできるよう努めていく。

北野の光

齋行された祭典・行事

《四月～九月》

明祭齋行（中祭）

御神前に無実の喜びを奉告

菅公の冤罪が晴れた日に当たる四月二十日、午前十時から御本殿において、その喜びを御神前に奉告する明祭を齋行した。

菅公は従二位右大臣の地位にあつたが、昌泰四年（九〇二）正月、左大臣藤原時平の讒言ざんげんによって無実の罪を着せられ、大宰権帥だざいのんのそちとして九州に流された。菅公は、大宰府の地に於いて艱難辛苦の暮らしを強いられ、二年後の延喜三年



（九〇三）二月二十五日、京を偲びながら失意のうちに薨去された。

二十年後の延長元年（九二二）四月二十日、冤罪は晴れて右大臣に復され、位も正二位に昇進された。なお、正暦四年（九九三）六月には正一位左大臣を、同年閏十月には人臣としては最高位の太政大臣を追贈されている。

文子天満宮例祭

コロナ禍、神輿渡御はせず居祭で齋行

平安時代の当宮創建に携わった多治比文子が、自邸で菅公を祀ったことに由来する末社文子天満宮の例祭を、四月十六日と十九日に齋行した。

例年ならば御神霊が神輿に遷され、神職や西之京瑞饋神輿保存会の人々のお供で同天満宮御旅所（上京区上ノ下立売通御前西入ル）まで、賑やかな渡御が行われるが、残念ながら今年は新型コロナウイルス感染症の拡大に鑑み神輿渡御は中止となった。

止となった。

このため、文子天満宮御社殿において同保存会の方々参列の下、十六日に神幸祭当日祭、また十九日には還幸祭当日祭を、居祭として厳粛に齋行した。

文子天満宮は、菅公の薨去後、最初に菅公をお祀りした文子の自邸内に建てられたが、明治初期に境内の現在地に遷された。例祭は、「文子さん」「文子まつり」と呼ばれて地域のの人たちに親しまれている。



酒造業界の安全と繁栄を祈願 新酒をお供えし献酒祭齋行

御神前に新酒をお供えし、五月十二日午前十時から御本殿において献酒祭を齋行した。

室町時代、当宮神人に麴造りの特権（北野麴座）が与えられたことから酒造関係者の崇敬が篤く、今年も御神前には多くの酒造会社から奉納された日本酒が供えられ、酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の無病息災を祈願した。

献酒頂いた酒造会社・酒造組合は次の通り。
（順不同）

佐々木酒造・松井酒造・宝酒造・増田徳兵衛商店・豊澤本店・黄桜・東山酒造・齊藤酒造・北川本家・山本本家・月桂冠・京姫酒造・鶴正酒造・都鶴酒造・平和酒造合資会社・藤岡酒造・キンシ正宗・玉乃光酒造・招徳酒造・城陽酒造・丹山酒造・関酒造・大石酒造・長老・羽田酒造・浪乃音酒造・平井商店・古川酒造・太田酒造・暁酒造・松瀬酒造・矢尾酒造・喜多酒造・愛知酒造・藤居本家・北島酒造・沢の鶴西日本支店・白鶴酒造大阪支社・本野田酒造・日本盛・北山酒造・白鷹・松竹梅酒造・辰馬本家酒造・國産酒造・万代大澤醸造・大澤本家酒造・大関・今津酒造・櫻正宗・菊正宗酒造・小山本家酒造灘浜福鶴蔵・剣菱酒造・安福又四郎商店・福徳長酒類関西支店・木下酒造・福光屋・三宅本店・奈良豊澤酒造・林酒造・伏見酒造組合・滋賀県酒造組合・西宮酒造家十日会・灘五郷酒造組合・山本合名会社・吉田酒造



北野第一摂社 地主神社例祭を齋行

当宮創建の百年以上前から境内に御鎮座されていた、当宮第一の摂社である地主神社の例祭を、四月十六日午前十時から齋行した。

地主神社は、御本殿東側奥に一際大きな摂社として御鎮座している。その歴史を繙けば、九世紀に成立した『続日本後記』の仁明天皇承和三年（八三五）二月の条に「遣唐使のために北野に天神地祇を祀る」とあり、平安京の天神地祇六十余国の神々を一堂に奉祀する社とされている。

菅公が、この北野の地に奉られた由縁は、百年以上も前からこの社が祀られ、聖地とされていたからであろう。古くは神輿も出御した、北野の地主神として霊験あらたかな古社である。



子どもの日 児童成育祈願祭齋行

子どもの日の五月五日、御本殿において午前十時から児童成育祈願祭を齋行した。

御神前には粽を供え、氏子崇敬者のご家庭の児童たちが、菅公の御神徳を頂き、健やかに成長し学問を立派に修められるよう祈願した。



厄除信仰の「大福梅」の梅の実採取

神職・巫女のみで二トンを収穫



厄除信仰のある「大福梅」となる梅の実の採取が、六月五日から約十日かけて境内一円で行われた。

境内には約五十種・千五百本の梅の木があり、京都市内では随一の梅の名所として知られている。

「大福梅」は、正月の祝膳の縁起物として人気が高く、梅の実の摘み取り作業は例年なら神職・巫女に崇敬者らも加わり、関係者総出の作業となるが、今年は新型コロナウイルス感染症対策により、



密集を避けるため崇敬者は加わらず、神職・巫女のみでの作業となった。

今年の梅の実も、例年通り順調に大きく実を膨らませており、神事用の覆面（マスク）で口元を覆った巫女らが、青々と実った梅の実を一粒ずつ丁寧に摘み取った。

収穫量は例年通り約二トンを、そのまま樽で塩漬けにして保存した。



毎年年末に授与される正月祝膳用の大福梅

伝統の北野四季祭のひとつ 神恩感謝と無病息災を祈願 青柏祭



柏の葉にご飯を包んで御神前に供え、日々の神恩に感謝し、人々の無病息災と身体健康を祈願する青柏祭を、六月十日午前十時から御本殿で齋行した。

古代より柏の葉は祭事用の器や添え物として神聖に扱われ、宮中祭祀や伊勢の神宮でも用いられている。また柏の葉は冬になっても葉を落とさず、春に新芽が出てから初めて落葉するため「代が途切れない」縁

起物とされる。

青柏祭は、季節の変わり目の神事として古くより齋行されてきた記録が残る。中でも特殊神饌として調製する青柏に包まれた御飯は、その形状も美しく独特である。

当宮では、古くより日本の四季・時節を重んずる伝統神事として、春の霞祭、初夏の青柏祭、初秋の御手洗祭、冬の赤柏祭という四季祭を執り行い、菅公を四季折々にお慰めし、御祭神への感謝と世の人々の安寧を祈願している。



境内に自生する柏の木

往時を偲び宮渡祭を齋行（中祭）

北野の現在地に当宮が御鎮座した日に当たる六月九日、御本殿で午前十時から宮渡祭を齋行し、往時を偲んだ。



大宰府で薨去された菅公の御神霊から、天慶五年（九四二）七月、西ノ京に住む多治比文子に「北野の地に鎮まりたい」との御神託がおりたが、家貧しく祀ることが出来ず、代わりに自宅近くにお祀りしていた。その後、天曆元年（九四七）には、近江比良宮の神主神良種の子息太郎丸にも同様の御神託があり、一夜にして数千本の松が、右近の馬場に生じるといふ出来事があった。

そこで文子・良種・北野朝日寺の僧最珍らが協力して、平安京の北西（乾）の地に御社殿を創建し、菅公を初めてお祀りしたのが同年六月九日であった。その故事を偲び毎年同日に祭典を行っている。

台所の守護神 竈社例祭

東門内の北側に御鎮座する末社竈社の例祭を、六月十七日午前十時から厳肅に齋行した。

竈社は古来、当宮の御供所のかまどに祀られていた台所の神々、家庭の守護神である庭津彦神・庭津姫神と、火を司る火産霊神をお祀りしており、御社殿下には、昔から神饌調理に使われてきた大釜が納められている。

祭典日であるこの日は、明治十四年末社に列せられた日に当たり、氏子崇敬者の各家庭の家内安全を御祭神に祈願した。

また最近では、アニメ・マンガで人気を博している『鬼滅の刃』の主人公の名が「竈門炭治郎」であることから、ご縁を感じるファンたちが、この竈社を熱心に参詣する姿も数多く見られる。



厄災・疾病を祓う夏越天神

もぎたての梅の実供え、御誕辰祭厳かに
楼門ではコロナ禍収束を願う「大茅の輪くぐり」



御祭神菅原道真公の御生誕の日に当たる六月二十五日、御本殿において午前九時から御誕辰祭を厳かに斎行した。菅公は承和十二年（八四五）六月二十五日、文章博士菅原是善公の第三子として京都で誕生され、延喜三年（九〇三）二月二十五日大宰府の配所で薨去された。この御神縁により毎月二十五日を「天神さん」の御縁日とするものだが、とくに御生誕された六月の縁日は「夏越天神」と呼ばれ、盛夏を控え厄除・無病息災を願って参拝する信仰が根付いている。

祭典は御神前に境内で採れたもぎたての梅の実などを備え、前夜より精進

潔斎のため神社に参籠・斎戒した宮司を始めとする神職によって厳かに斎行された。御本殿での祭典後、菅公の母君を祀る伴氏社を巡拝した。

夏越天神の日の恒例として信仰を集めるのが楼門での「大茅の輪くぐり」。茅の輪の大きさは直径五メートルという京都では最大級のもの。新型コロナウイルス感染症の拡大を避けるため、名物の天神市の露店はこの日も中止だったが、災厄を祓い、一年間の無病息災を祈る参拝者が午前五時の開門とともに次々と訪れ大茅の輪をくぐっていた。

楼門付近は例年とあまり変わらない賑わいだったが、コロナ感染症拡大防



止を意識し、マスクを着用している参拝者が多く、距離を取って茅の輪をくぐる様子が見てとれた。「毎年大茅の輪をくぐって健康を頂いているが今年は格別。コロナに罹らないように祈った」「一日も早く収束して平穏な日々を取り戻したいと祈った」などなど、コロナ禍を意識する声があちこちで聞かれた。

例年はこの日だけで取り外されるが、今年はコロナ禍の収束を願って参拝する人のために月末まで据え置かれた。

雨の夏越の大祓式に二百人が参列 半年間の穢れを祓い、夏場の健康を祈願

夏越の大祓式が六月三十日午後四時から雨の中、本殿前中庭で斎行された。大祓は六月と十二月の晦日に行なわれる古来からの習わし。今年半年間、無意識のうちに身についた罪や穢れを祓い清め、すがすがしい気持ちで夏を越すことを願う崇敬者・参拝者約二百人が参列した。

神職・参列者全員で大祓詞を奏上、それぞれが切麻を撒き邪気を祓った後、神職・役員らに引き続き神職の先導によって参列者が中庭に設けられた背丈ほどの大きな茅の輪を古式通り三度くぐって夏場の健康を祈願した。今年は新型コロナウイルス感染症拡大



防止のため、参列者はマスクを着け、間隔を開けての茅の輪くぐりとなった。

また、この半年間に納められた人形・車形代なども唐櫃に入れられ、神職が担いで茅の輪をくぐった。

生産地から奉献の新茶を供え 新茶奉献奉告祭を斎行

今年摘みとられた新茶を御神前にお供えし、新茶奉献奉告祭を七月二十五日午前九時半から御本殿で斎行した。

当宮は天正十五年（一五八七）、豊臣秀吉公により境内で北野大茶湯が催されたこともあって茶家からの信仰が篤い。

祭典は、御神前に宇治・宇治田原・木幡・城陽・佐山・京田辺・醍醐・伏見・向島・綴喜・山城・南山城・信楽などの生産地を始め京都の銘茶どころ各地域で摘まれた新茶が供えられ、生産者の無病息災と茶業の益々の発展を祈願した。



夏の文化財防火運動 恒例の消防訓練を実施



夏の文化財防火運動期間中の七月十五日、上京消防署、上京警察署と連携して境内で恒例の消防訓練を実施した。

国宝の御本殿東楽の間付近から出火、延焼中との想定。消防署員や当宮の自衛消防隊員による放水が行われ



れた。宝物類の搬出や負傷者の救出もテキパキと行われ、さらには刃物を持つてうろつく上京警察署員扮する放火犯を同警察署員が取り押さえるという場面もあり、迫真の訓練となった。訓練後、谷鋪昌三上京消防署長が講評を行った。

梅雨明けを待つ「土用干し」 新型コロナウイルス感染にも配慮

塩漬けにしていた梅を取り出して天日で乾燥させる「土用干し」が八月三日から始まった。今年は梅雨明けがおそく、例年より一週間以上遅れての作業開始となった。蝉しぐれの中、むしろの上で梅が重ならないよう神職・巫女が丁寧に並べていき、新型コロナウイルス感染症対策のために上から透明ビニールを張った木枠で覆った。「土用干し」は、梅がカラカラになるまで三〜四週間かけて行われ、その後再度塩漬けにして保存。裏白とともに奉書紙に包んで調製し、十二月十三日の事始めから正月の縁起物大福梅として参拝者に授与される。

大福梅は平安時代、村上天皇の御代の天曆五年（九五二）に疫病が流行し、天皇も罹患されたが、「大福梅」を入れた茶を飲まれ平癒されたとの故事由来する。元旦の祝膳で初茶として白湯に入れて頂き、邪気を祓い、一年間の健康を祈る当宮ならではの縁起物として信仰を集めている。



感性溢れる五百二十七点を展示 奉納図画展 百八十二点が入選



夏休み恒例の奉納図画展が八月二十一日から三十日まで西廻廊で開かれ、幼児から高校一年生までの出品作五百二十七点（昨年六百十六点）が一室に展示された。

子どもたちが夏休み中に描いた作品を奉納し、図画の上達を祈願する七十年近い歴史を誇る当宮ならではの伝統行事。ザリガニやスイカ・ピーマンといった動植物や、三光門などの境内を描いた、色鮮やかな子どもたちの感性溢れた作品が並び、参拝者の目を楽しませた。

審査は展示初日の二十一日、三輪晃久（日本画家）、伊庭新太郎（洋画家）の両先生と橘宮司によって行われ、百八十三点の入選作品が決まった。

入選者授賞式で図画の上達と学力向上を祈願

入選者の授賞式は三十日午後、御本殿で入選者と保護者が参列して行われた。奉告祭ではお祓いの後、入選者代表の井原稟乃さんが玉串を捧げ、全員で図画の上達と学力向上などを祈願した。挨拶に立った宮司は、九月四日に比叡山の僧侶を迎えてコロナ禍収束の願いを込めた御霊会を行うことを紹介し、「大変な中でみなさんは立派な作品を描いた。賞を励みに勉強、スポーツに勤しみ、心も磨いて立派な人になって下さい」と激励した。

入選者氏名〔敬称略〕

〔天満宮賞〕

高嶋澄空（三歳児）、阪口颯真（北野幼稚園年少）、福島碧夏（月かげ保育園年中）、西本夏乃（北野幼稚園年中）、中島壮亮（北野幼稚園年中）、石本純音（月かげ保育園年長）、土谷花江（北野幼稚園年長）、岡本陽向子（室町小一年）、中谷龍一（室町小二年）、斉藤寧々（紫明小三年）、篠田盛徳（ノートルダム学院小四年）、井原稟乃（室町小五年）、篠田一斎（ノートルダム学院小六年）

〔京都新聞特別賞〕

今井泉（鳳徳小六年）

〔京都新聞賞〕

古島万（せいしん幼児園三歳児）、正木佑芽（京和幼稚園年少）、ブルーム愛里彩（みつば幼稚園年中）、宮崎紘（北野幼稚園年中）、中村奏翔（北野幼稚園年長）、竹中芽依（北野幼稚園年長）、豊浦陽希（新町小二年）、近藤沙月（京都女子大学付属小四年）、宮階愛梨（西陣中央小五年）

〔上京子供会会長賞〕

原田悠吏（紫竹小一年）、池田い空（大宮小三年）

〔金賞〕

宮寄蓮（京和幼稚園年少） 始め六十五人

〔銀賞〕

山本さくら（北野保育園年少） 始め九十三人

● 審査員の講評 ●

出品点数は昨年より九十点ばかり下回ったが、これは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って絵を教える塾などが“密”を避けて休んだことなども影響したのではないかと思っている。出品作品からは、コロナ禍の影響などはまったく感じられず、いつも通りの子どもたちの感性溢れたレベルの高いものが集まった。色彩感覚のすぐれたものが多かったし、京都らしい気品も感じられた。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えず子どもたちも大変だろうと思うが、集団で描くのは難しくても一人でも工夫して絵筆を握り続けてほしい。ぜひ楽しみながら描いてほしい。

親子ふれあい写生大会は中止

例年五月に開催され、七月に当宮にて表彰式が行われる上京子供会育成連絡協議会（倉辻彦一会長）主催の「親子ふれあい写生大会」は、新型コロナウイルス感染症拡大状況に鑑み、本年度は中止された。



昨年度の表彰式の様子

十二月一日 献茶祭

本年は祭典のみ御本殿にて齋行

献茶祭は裏千家今日庵家元千宗室宗匠ご奉仕
各茶席・協賛席は中止

当宮献茶祭は明治十一年に再興された。

御神前でのお点前で用いられる茶葉は、
毎年山城六郷（木幡・宇治・伏見桃山・小倉・
八幡・京都・山城）の産地から、茶壺に詰
められて奉献される。

御茶壺奉献奉告祭並びに口切式から献茶
祭へと続く一連の古式に則った神事は全国
的にも非常に珍しく、毎年厳粛に執り行わ
れている。豊臣秀吉公が、約四百年前に催
した北野大茶湯の縁を今に伝える献茶祭を
十二月一日、御本殿で齋行する。

当宮の献茶祭は、在洛の藪内家・表千家・
裏千家・武者小路千家の四家元と堀内家・
久田家二宗匠輪番によるご奉仕が慣例とさ
れ、本年は裏千家今日庵家元千宗室宗匠に
ご奉仕いただくことになっている。

尚、今回の献茶祭は、新型コロナナウイ
ルス感染症拡大予防の観点から御本殿での祭
典齋行と、祭典中の神事としての献茶お点
前のご奉仕いただくが、例年行われている
各茶席・協賛席は中止とさせていただきます、
菓匠会による飾り菓子の展示も行わないこ
ととなった。

十一月二十六日

御茶壺奉献奉告祭・口切式

本年は祭典のみ御本殿にて齋行

御茶壺道中は中止

口切り式は一壺のみ

例年、十二月一日齋行の献茶祭に先立ち、祭
典中のお点前で使用される抹茶の原料である
碾茶が、十一月二十六日奉献される。

例年は、賑々しく御茶壺道中を行い、御本殿
にて奉献された全ての茶壺の口切り式を行うが、
本年は、新型コロナナウイルス感染症拡大予防の
ため、多数の参拝者が観覧される御茶壺道中は
行わない。

御本殿では、御茶壺奉献奉告祭を齋行した後、



献茶祭保存
会役員が、
「口切式」
として一つ
だけ茶壺の
口を切り、
茶葉の検知
を行う、略
式の口切り
式を行うこ
ととなつ
た。

十一月三日

曲水の宴

例年十一月三日に開催している「曲水の宴」は、
新型コロナナウイルス感染症拡大予防のため、本年
は規模を大幅に縮小して開催する。

当日は、午前中に講社大祭が御本殿で齋行され
るが、曲水の宴には講社大祭に参列する講社の理
事以上のみとし、一般会員には参列案内を行わな
い。あわせて、例年一般の方々に行ってきた観覧
チケットの頒布も今年は行わず、密を避け少人数
の観覧者で行う予定。





十月二十一日

一條天皇行幸始祭（中祭）

平安時代中期の寛弘元年（一〇〇四）に、一條天皇が初めて当宮へ行幸された日に当たる十月二十一日、その佳日を壽ぎ御本殿において祭典を執り行う。

この祭典は一條天皇の行幸以来、毎年永きに亘り齋行されてきたが、戦後の一時期途絶えていた。平成二十五年、一條天皇行幸より一〇一〇年の佳節を以て、当宮にとって重要な祭儀であった「一條天皇行幸始祭」を、六十余年ぶりに再興したものである。

十月二十九日

余香祭

『重陽後一日』の名詩を作られた菅公をしのび、十月二十九日、御本殿で余香祭を齋行する。例年の祭典では、車座になった向陽会会員らが、全国から寄せられる献詠歌を、綾小路流という独特の節回しで披講する献詠歌披講式も併せて執り行うが、本年は新型コロナウイルス感染症防止を鑑み、披講式をとり止め献詠歌を御神前に奉納する形式で齋行する。



十二月二十三日

新嘗祭（大祭）

新嘗祭の「新」は新穀、「嘗」は神様に召し上がって頂くという意味で、その年に収穫された稲穂や白米・白酒などに加え、海川山野の様々な食物、また氏子崇敬者が丹精込めて育てた野菜などを御神前に供え、当年の稔りに感謝する祭典で、年間の恒例祭典の中でも最も重要な祭儀の一つ。新嘗祭は、全国の神社で齋行されるが、当宮でも、多数の氏子崇敬者が参列のもと、大祭式にて厳粛に齋行する。

十二月十三日

大福梅の授与

正月祝膳の縁起物として名高い「大福梅」の調製作業を十一月下旬に行い、事始めの十二月十三日から授与を始める。

大福梅は、元旦に厄除開運招福息災の願いを込め、白湯に入れて頂く古くからの縁起もの。例年早朝より多くの参拝者が長蛇の列をなし、競って大福梅を授かる光景は、初春の訪れを予感させる風物詩となっている。

祭事暦 (10月1日～12月31日)

《10月》

【赤字表記：北野祭祭礼】

- 10月1日～5日 瑞饋祭(本年居祭にて全て御本殿にて斎行)
- 1日 午前10時 月首祭・神幸祭当日祭
午後4時 明月祭(芋名月)
- 2日 午前10時 献茶祭 表千家宗匠ご奉仕
- 3日 午後3時 甲御供奉饌
西ノ京七保会による特殊神饌の奉饌
- 4日 午前10時 着御祭当日祭
- 5日 午前10時 后宴祭
- 15日 午前10時 月次祭
- 17日 午前10時 神宮祭
- 20日 参籠
- 21日 午前10時 一條天皇行幸始祭(中祭式)
午前11時 秋季撰末社奉饌
- 22日 午前11時 神仏合同国家安泰世界平和
並びに疫病退散祈願祭
- 25日 午前9時 月次祭
午後4時 夕神饌
- 29日 午後2時 余香祭
午後4時 名月祭(豆名月)

《11月》

- 1日 午前10時 月首祭
- 3日 午前10時 明治祭
午後1時半 教育勅語渙発百三十周年記念祭
北野天満宮講社大祭・曲水の宴
- 15日 午前10時 月次祭
- 22日 参籠
- 23日 午前10時 新嘗祭(大祭式)
- 25日 午前9時 月次祭
午後4時 夕神饌
- 26日 午前11時 御茶壺奉献奉告祭並びに口切式
- 27日 午前10時 摂社和泉殿社例祭
- 30日 午前10時 赤柏祭

《12月》

- 1日 午前9時 月首祭
午前10時 献茶祭 ご奉仕 裏千家千宗室宗匠
- 13日 午前8時半 大福梅授与
- 15日 午前10時 月次祭
- 16日 参籠
- 17日 午前9時 御煤払い
- 25日 午前9時 月次祭
午後4時 夕神饌
- 28日 午前9時 注連縄飾り
- 31日 参籠
午後4時 大祓式
午後7時 除夜祭
午後7時半 火之御子社鑽火祭
午後10時～午前3時 火縄授与



月釜献茶 (11月1日～12月31日)



《11月》

- 1日 献茶祭保存会 コロナ禍により中止
- 10日 梅文会 コロナ禍により中止
- 15日 献茶祭保存会 コロナ禍により中止
松向軒保存会 コロナ禍により中止
- 22日 紫芳会 沢原あゆ美 松向軒

《12月》

- 1日 献茶祭 祭典のみで茶会中止
- 8日 梅文会 未定
- 15日 松向軒保存会 コロナ禍により中止
- 27日 紫芳会 休会



十二月二十五日

終い天神

毎月二十五日は、菅公の御縁日。毎月多くの参拝者で境内は溢れかえるが、十二月二十五日は、今年の最後を締めくくるとして「終い天神」と呼ばれることから「終い天神」と呼ばれ遠近の市民に親しまれている。

境内には迎春の縁起物を始め、骨董や食品など、店先いっぱい商品が並び、多くの露天商が立ち並び、正月用品などを買い求める参拝者で終日にぎわう。(新型コロナウイルス感染症の状況により内容変更の可能性あり)



十二月三十一日

大祓式

大祓式は半年に一度、六月三十日と大晦日に行われる恒例の祭典。

日々の生活の中で、知らず知らずのうちに犯したであろう自らの罪穢れを人形に託して祓い去り、心身ともに新たに、清らかで明るい気持ちで、来る新年を迎えるための神事である。その起源は遠く神代にまで遡り、今なお、宮中をはじめ伊勢の神宮、全国の神社で行われており、当宮にも身を清めるため毎年多くの参列者が訪れる。

コロナ禍の収束と
子供たちの健康なる成育を祈願して参拝
北野幼稚園の園児たちが手作り御輿を制作



園児たちの手作り御輿

当宮のお膝元にある北野幼稚園の園児たちが、園内様々な素材を基に制作した手作り御輿を奉納し、八月六日正式参拝した。この御輿は新聞紙や段ボール、帯締め紐などを使用し、当宮に伝わる御鳳輦をモデルに、屋根には金色の鳳凰をのせ、まわりの装飾には鳥居や梅鉢紋のデザインを施した、まさに天神さん仕様の可愛らしい意匠。

北野幼稚園では、春先より新型コロナウイルス感染症の影響により、園行事が相次いで中止となる中、せめてもの夏の思い出づくりとして、コロナ禍の一日も早い収束と園児たちの健康と安全、健やかなる成育を祈るため、年長組の園児たち三十八名が中心となり、材料は保護者や関係者から納められたリサイクル品や園内にあった素材を無駄なく活用し、手作りで約一カ月かけて制作した。

池田園長は「子供たちにとつて、この制作を通じて非常に良い思い出ができた。これからも天神さんとのご縁を大切に、楽しい幼稚園生活を過ごせたら」と嬉しそうに語られた。

京都府森林組合連合会
瑞饋祭三条駐輦所にヒノキ材の車止め奉納
青合会長ら来社、奉納奉告祭を斎行



奉納奉告祭と受納證の授与

老朽化していた当宮の瑞饋祭三条駐輦所の車止めを京都府森林組合連合会（青合幹夫代表理事会長）より新しく奉納頂き、九月十六日、御本殿で奉納奉告祭を斎行した。

奉納された車止めは、長さ三・六メートル、直径二十八センチで、樹齢八十年ぐらいのヒノキ材を使って造られた豪華なもの。

青合会長や当宮総代でもある田中俊夫氏（京都市森林組合長）ら四人で来社され、御本殿での奉告祭の後、三条駐輦所に移動し、台座（ヒノキ材）の上に置かれた新しい車止め

の前で斎行された清祓いに臨まれた。

青合会長は「車止めが相当傷んでおり、気になっていた。メンバーである田中さんが天満宮とも関係があり、新しい車止めを奉納した。数本あったヒノキ材の中からもっともよいものを選んで加工、磨き上げて奉納した」と、話されていた。

三条駐輦所のすぐ横に森林組合の事務所があり、毎年瑞饋祭の折には、トイレを開放するなどのご便宜を図って頂いている。



車止めを清祓い



三条駐輦所にて

氏子講社だより

瑞饋祭は渡御なし、居祭で斎行

コロナ禍に配慮 常任理事会承認



北野天満宮氏子講社（宮階有二講社長）の常任理事会が七月二十二日、文道会館で開催され、十月の瑞饋祭は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い神輿渡御は取り止めとし、居祭りで斎行することなどを骨子とした事務局案が承認された。

宮司、宮階講社長の挨拶の後、令和元年度の決算報告を承認した。引き続き事務局から今年の瑞饋祭は、大人数の渡御列を伴う神輿渡御は昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止と参列者並びに奉仕者等の健康と安全確保のため、居祭で斎行したい旨の提案があり、承認された。

出席役員からは「非常に残念だが神輿渡御は密集が避けられず、やむを得ない」の声が出された。

居祭としての瑞饋祭の主な祭礼日程は、神幸祭当日祭（一日）、還幸祭当日祭（四日）、献茶祭（二日）、甲御供奉饌（三日）などが本社御本殿などで斎行される。また、「すいき御輿」については、「今年も例年通り奉製したい」旨の申し出が西之京瑞饋神輿保存会からあったことも報告された。

なお、常任理事会の承認事項は例年なら理事会に諮られるが、コロナ禍によって多数の理事が集まる理事会を開かず、この決定を書面で報告する。

献茶祭保存会だより

御本殿での献茶祭は例年通り厳粛に

拝服席などはすべて中止、御茶壺道中も
コロナ禍に対応、役員会決定

献茶祭保存会の役員会が八月四日、文道会館で開催され、十二月一日の献茶祭について協議、御本殿での祭典は予定通り斎行されるも新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って多くの人が参集する拝服席や副席はすべて取り止めとし、それに先立つ御茶壺道中なども中止とするなどの細目を決めた。

宮司挨拶の後、本年の御当番、裏千家今日庵家元の名代として出席された村上利行氏が「北野天満宮の献茶祭は日本で最初の歴史ある献茶祭であり、六年に一回の当番は裏千家にとっても大変重要なもの」と挨拶された。

この後議案の審議に移り、まず献茶祭に先立つ十一月二十六日の御茶壺奉献奉告祭と口切式について協議。例年松向軒前から御本殿まで大掛かりな御茶壺道中が行われるが、大人数の行列は密集化が避けられないため中止とし、御本殿での奉献奉告祭は例年通りとするも、口切式は一の



茶壺の「木幡」のみにごごめ、二の茶壺以降（宇治・菟道・伏見・桃山・小倉・八幡・京都・山城）は、役員（神職）によって順次開封して御神前にお供えすることとした。

御本殿における献茶祭については、例年通り一日午前十時から裏千家の千宗室家元のご奉仕によって厳粛に執り行われることを確認。保存会宰領の渡辺孝史氏が「コロナ禍の最中だが、献茶祭が無事斎行できるよう祈りたい」と挨拶され、役員会を終えた。

百年を迎える 「千丸子供神輿」が正式参拝

大正十年に発足、毎年瑞饋祭に合わせ子どもたちが元気に地域を巡行している「千丸子供神輿」が数え百年を迎え、十月四日奉賛会の役員約二十人が御本殿に正式参拝した。

今年は新型コロナウイルス禍の中で、通常の子どもの巡行は中止とし、この日は役員のみが御輿・獅子・提灯などを携えての参拝となった。御本殿に正式参拝してお祓いを受け、子どもたちの健やかな成長と「千丸子供神輿」の今後の発展を祈願した。

なお、千丸子供神輿奉賛会では、満百周年を迎える来年度に、記念の行事を盛大に執り行う予定をしている。



千丸子供神輿第1回巡行記念写真（大正10年10月4日）

正式参拝された皆様（敬称略）（四月～九月）

七月 六日（月） 京都北ロータリークラブ田中嘉人新会長
同 毛利泰巳新幹事
八月 二十一日（月） 曼殊院門跡藤光賢門主

挙式された皆様（四月～九月）

四月 四日（土） 堀川 雄矢・明子 ご夫妻
六月 二十一日（日） 濱中 徹・亜美 ご夫妻
九月 二十日（日） 吉川 祥太・遙 ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様のご多幸を祈念申し上げます。

献詠 濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

四月「春月」

愛犬と初夜に加茂川漫ろ歩く
叡山南春月昇る
白妙の和の衿と衣きて
離の階のぼる春月
春月や一刻千金黄昏れて
今宵風雅に臙極むる
地球今コロナウィルスことのはの
力を信じ春月の窓
月影に花散る里の春の夜に
畦道白く社へかよふ
人の世に絶後の災禍来たるとも
春月照らす花のうるはし
街の灯の小路をたどる人影も
さながらかすむ春月夜
ひとの世のあすも知らせて花をのみ
甲斐なく照らす淡き春月
ゆく春を知るよしはなく皆にふる
月あかりさへおぼろなるかな
春宵の古都を逍遙せし父の高き
影追ふむかし惚ばゆ

陸奥の国胆沢の城跡訪ね来て
蝦夷の反乱田村麻呂偲ぶ
陸奥紙の技を伝える打掛は
魂入りて夫婦崇えり
遠き日に陸奥を旅せし思ひ出は
巨きなる岩今も忘れず
疫病は忘れた頃にやってくる
陸奥の佐久良よ歴史に刻め
海よりの風吹く陸奥に夏近し
大漁旗の帰り来る朝
陸奥国サザンクロスは見えねども
心に灯す銀河鉄道

京都府 叡谷 寿
京都府 村島 麗門
京都府 塩小路光胤
京都府 若狭 静一
東京都 白石 雅彦
京都府 朝比奈崇子
東京都 岡田季実子
京都府 田口 総恵
京都府 若狭 静一
京都府 白石 雅彦
京都府 朝比奈崇子
京都府 岡田季実子
京都府 田口 総恵
京都府 若狭 静一
京都府 白石 雅彦
京都府 朝比奈崇子
京都府 岡田季実子
京都府 田口 総恵

六月「忍草」

陸奥へ道は閉づとも玉梓の
水茎の跡に青田を思ふ
やがて行く道とは聞けどみちのくの
しのぶに余る五月なりけり
【評】「都からみて遠い奥」の意。「みちのおく」が訛つて「みちのく」「むつ」「りくおう」とも。旅の思い出を詠む歌が多くみられた。
戸を開けて寝転ぶ窓辺の夏座敷
風に揺られてる吊忍草
伯父かずおスペイン風で天国へ
祖母涙留め忍草見つむ
コロナ禍にめだかの群れは忍草
水鉢のなか人の世を見ん
想へども叶はぬ恋を忍草
乱れ心の誰も知らずに
親里の古き軒端の忍草
幼き我と若き父見ゆ

七月「天橋立」

雲一つなき青空に龍いづる
社静かに天橋立
すばらしき天の橋立日の本の
これぞ流石に三景の一
旅支度せしも病の父見舞ふ
母はりモート天橋立
七色の橋と竜巻雲昇り
すゑ幸ひと天橋立
天空に昇る龍にも見ゆる道
天橋立我もいかまほし
【評】歌枕としてたびたび詠まれ、文学や絵画などの題材として目にすることも多い。龍を詠む歌が見られるように「飛龍観」と呼ばれる眺めは有名で、龍が舞う姿に見える。都人の憧れの地であった。

八月「夏雲」

般若心経の「心」といふ字は
令和二年の夏雲に在り

京都府 朝比奈崇子
京都府 田口 総恵
京都府 若狭 静一
京都府 白石 雅彦
京都府 朝比奈崇子
京都府 田口 総恵
京都府 若狭 静一
京都府 白石 雅彦
京都府 朝比奈崇子
京都府 田口 総恵
京都府 若狭 静一
京都府 白石 雅彦
京都府 朝比奈崇子
京都府 田口 総恵
京都府 若狭 静一
京都府 白石 雅彦

九月「須磨」

沛然と地を打ち鳴らす雷雲も
去りたる後は虹の掛橋
青海原を映せる空は夏雲の
愛犬と竜の泳ぎ行くなり
屋久杉のずっしり伸びて夏雲を
掴むがごとく千年を経る
青空に白き夏雲蟬の声
森の木漏れ日故郷の夏
深緑に鎮守の森は静まりて
雲切り裂きツバクラメ飛ぶ
【評】戦を思う夏、コロナの夏。忘れえぬ夏があり、またそれぞれの夏が心に刻まれる。それら象徴としての雲がよく描き出されている。
遠き日に夫と行きたる須磨の旅
風光明美臉に残る
珍しき魚おほかれど須磨の海
我がゆかしきは海月なりけり
夏風で日本崇の宝船を
迎ふる須磨の灯は代々に
詠み人の名残りか波の浜ゆけば
須磨に静けき秋の訪れ
須磨の浦に思ひ出づるは光る月
髪挿す紅葉に舞ふ青海波

御旅所献詠「紙」

あでやかに扇重ねて京の四季
あな尊しや極彩の紙
折り紙は不思議なものよ幼子も
老いたる人も夢中にさせる
雷神の北野の神の御神幸
豊作願ひ紙垂うちふるふ
【評】鷹峯を源に、のち御室川と合流して桂川に流入する天神川は、北野天満宮の紅葉苑を流れて紙屋川という。平安時代には紙座があり、禁裡御用の紙を漉いた。
【評】白砂青松の海浜で、歌枕として多くの歌が詠まれてきた。「須磨の海女の塩焼き衣の慣れなばか一日も君を忘れて思はむ」(山部赤人)など、「海人」「塩焼き衣」などの言葉と共に詠まれ、悲しい恋の歌が多い。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授

藤井 讓治

比叡山遺教院と北野天満宮

当宮には古くは比叡山遺教院天満宮にあった東帯天神像が奉納され所蔵されている。この天神像については、かつて社報で紹介したことがある。しかしその折は、当宮へ奉納された画像の文化的価値や奉納の経緯を中心に紹介した。今回は、元あった遺教院に注目して紹介しようと思う。

遺教院は、比叡山の東塔南谷の僧坊であり、その歴史は尊意僧正（八六六〜九四〇）の住坊であった法性坊がその魁である。

法性坊尊意は、平安時代中期の僧で、京都に生まれ、比叡山に登って増全に師事し得度、その後円珍に受戒し、延長四年（九二六）に一三代天台座主となり、天慶元年（九三八）に大僧都となった。兵乱、安産、請雨などの法を修し靈験があったといわれている。死後、僧正の僧



比叡山遺教院に伝わっていた東帯天神像



登天天満宮の石燈籠

位を贈られた。

尊意と道真公との関係は、荒ぶる神となった道真公が尊意の住坊である法性坊に降り立ったとき、尊意は道真公の御霊を鎮め天へ返したと伝えられる。その時道真公が天に帰ったときの石が江戸時代には残っていたようである。

江戸時代中期、尾張藩士で博学の国学者として知られた天野信景（一六六三〜一七三三）が書いた『塩尻』に、つぎのような記事が残されている。

むかし菅家の怨霊比叡の山法性坊に現じ玉ふしと、其古跡ありやと云、叡山遺教院御所にして、神怒りに触れて天に登りまし、ける跡とて、今に登天石といふ所あり、

「菅家の怨霊」は道真公のことであるが、現在も延暦寺東谷の大講堂近くには登天天満宮があり、その側に立つ燈籠の棹の表には「天満大自在天神□□」、右側面には「正徳五乙未（一七一五）二月二十五日／法印大僧都幸□」の刻銘が読み取れる。この石燈籠が元の位置から移動していないとすれば、遺教院はこの近くにあったものと推察される。

なお『塩尻』にみえる「登天石」は、現在も比叡山山内に現存している。

天神さん

思い出写真館

昭和三年春齋行の千二十五年半萬燈祭の賑わいを示す写真二枚である。

参道を進む花街参拝団を撮ったものと、もう一枚は奉納された品々の陳列場所を撮影した写真である。『千二十五年祭北野會要誌』によれば、花街参拝団は、四日間にわたり京都市内の花街などから芸舞妓並びに役員・付添ら総勢約六百五十人が繰り込んだ、という。参道両脇を見物の参拝者が埋めつくす中、揃いの日傘を差した花街の一団が進行している。「揃いの衣装花々しく行列して参拝をなし、境内に花を咲かせた」とあり、見守る人たちの声まで聞こえてきそうな一枚である。

一方、奉納品が陳列された場所は楼門下東側。『要誌』によれば、奉納品は米俵・酒・灯油・太鼓・真綿・大鏡餅・造花・絵馬などで、これらの大半は飾り車に積み、市中を曳き回り、賑々しく奉納されたという。写真は陳列された奉納品に見やりながら歩く参拝者の姿を捉えているが、賑わいの中にも何となくどこかな雰囲気を感じている。



錦秋の御土居 菅公ゆかりのもみじ苑公開



展望所より御本殿を望む

菅公御歌

このたびは

幣もとりあへず

手向山

紅葉の錦

神のまにまに

菅公が昌泰元年（八九八）、宇多上皇の和国御巡幸のみぎりに供奉され、手向山八幡宮に参拝された折にお詠みになられた御歌である。

この意は手向山八幡宮への突然の参拝にお供物を準備いたしませんでしたが、美しく織りなされた錦のような境内の紅葉を、御神前へお手向けいたしましたというものであり、梅と同じく紅葉もこよなく愛された菅公との御縁深き逸話として語り継がれている。

**太閤秀吉公が築いた御土居を彩る約四〇〇本のもみじ
十一月一日から、恒例の史跡御土居のもみじ苑を公開する。**

本年は新型コロナウイルス感染症により、京都の観光客は激減し、秋の行楽シーズンの影響も懸念されているが、三密回避等の感染予防対策を講じた上で社会活動を両立させていく流れの中で、当宮も今秋京都に訪れる参拝者・観光客に対し、万全の対策を行い、菅公ゆかりのもみじを堪能して頂きたい公開する運びとなった。

当宮のもみじ苑は、御土居の構造を活かした見方が特徴で、御土居上部からはもみじを見下ろす景観が、御土居下部からはもみじを見上げる景観がそれぞれ楽しめる。

また十一月十四日からは、ライトアップを実施。昼間の紅葉とは一味違った幻想的な紅葉の世界が御土居一面に広がる様子が見所の一つだ。

天正十九年（一五九一）に築かれて以来、実に四百三十年に亘り守られてきた豊臣秀吉ゆかりの歴史の遺構である御土居。樹齢四百年を超える「三叉のもみじ」や国宝御本殿を一望できる展望所など、当宮ならではの秋の景観をぜひご覧頂きたい。



御土居 紙屋川に色づく紅葉

【公開日程】十一月一日（日）～十二月六日（日）午前九時から午後四時（終了）
【ライトアップ】十一月十四日（土）～十二月六日（日）日没から午後八時（終了）

北野天満宮宝物殿 源氏の宝刀「鬼切丸(別名髭切)」ほか名刀約四十振見参!

大刀剣展 改メ

刀剣探訪

令和2年 10月25日(日) — 12月6日(日)

通常
拝観

月・火・水・木・金(平日のみ)
9時〜16時

特別
拝観

土曜日・日曜日・祝日
各日10時半〜14時半 / 各回定員15名
お申し込みは、**当館HPより事前予約制**

この度の特別拝観では、「刀剣探訪」と題し、神社に伝わる逸話や信仰と共に当宮所蔵の刀剣を紹介。宝物殿の空間すべてを刀剣で彩るのはおよそ二年ぶりとなり、土曜日曜祝日は一日二回、各回定員十五名までの少人数貸切拝観にて神職による解説付きで、案内する。

展示内容は重要文化財鬼切丸(髭切)を筆頭に、菅公の守刀と伝わる脇差銘猫丸、渡唐天神が彫られた短刀銘大慶直胤、豊臣秀頼公が慶長十二年(一六〇七)、御社殿造営に際し奉納した太刀銘國廣や、加賀前田家が五十年ごとの大萬燈祭にあわせて奉納した太刀恒次(鎌倉時代)、太刀助守などの重要文化財を含む約四十点の名刀が一堂に会し、刀剣ファンならずとも必見の展覧会間違いなし。是非ご拝観頂きたい。

Special Exhibition
SWORDS OF KITANO-TENMANGU



令和二年 茶道資料館 秋季特別展

北野大茶湯

— 天正から現代へ —

天正十五年(一五八七)十月一日、豊臣秀吉公が北野天満宮にて催した大茶会「北野大茶湯」。身分にこだわらず広く参加を呼び掛け、千を超える茶屋が建てられたとされるまさに空前絶後の茶会であり、その様は江戸時代に入り、天保十四年(一八四三)、復古やまと絵の画家浮田一蕙により北野大茶湯図などに描かれ今に語り継がれている。

本展ではこの北野大茶湯をテーマに前半部では、公家や僧侶たちが書いた当時の日記に加え、近年最も信頼性が高いとされた「北野大茶湯之記」(北野天満宮所蔵)に基づき、天正の北野大茶湯の実像に迫り、一蕙が何を描こうとしたのかについて考察。さらに北野大茶湯を由来とする北野天満宮での献茶祭は、明治から続く伝統神事で京都の茶家輪番によって毎年十二月一日に献茶祭が執り行われる。それに伴い境内では、茶席が設けられ抹茶が振る舞われる。明治十九年(一八八六)と昭和十一年(一九三六)には、北野大茶湯から三百年、三百五十年を記念して、盛大に茶会が開かれ、特に昭和十一年に行われた「昭和北野大茶湯」は多くの記録が残り、当時の熱狂ぶりを窺い知ることが出来る。

本展の後半部では、明治から現在まで百年以上続く献茶祭を中心に、北野天満宮と茶家との関わりを紹介する。

2020 Special Autumn Exhibition
The Grand Chanoyu Event at Kitano
— From the Tenshō Era to Modern Times —

北野大茶湯

2020. 10.6-12.3
Tue Thu

【前期】10月6日(火)〜11月3日(火・祝)
【後期】11月6日(金)〜12月3日(木)

※状況により、会期等変更する場合があります。
※詳細は当館ホームページにて案内いたします。

予約優先制

予約は当館ホームページ
または電話にて受付
場合があります。

※予約の多い場合はお持ちいただく
場合があります。

※入館にはマスクが必要です。

※換熱、換気などの状況がある方、
体調不良の方は、ご来館をお控えください。

茶道資料館

Chado Research Center

〒602-0073 京都市上京区堀田通寺之内上る寺之内町野町62番地
茶子センター内 TEL: 075-431-6474

http://www.chado.or.jp/www/gallery/teji/index.html (日本語)
http://www.chado.or.jp/www/gallery/teji/index.html (English)

主催 | 北野天満宮(協賛) | 運営・管理
実行 | 14年(1843) 北野天満宮

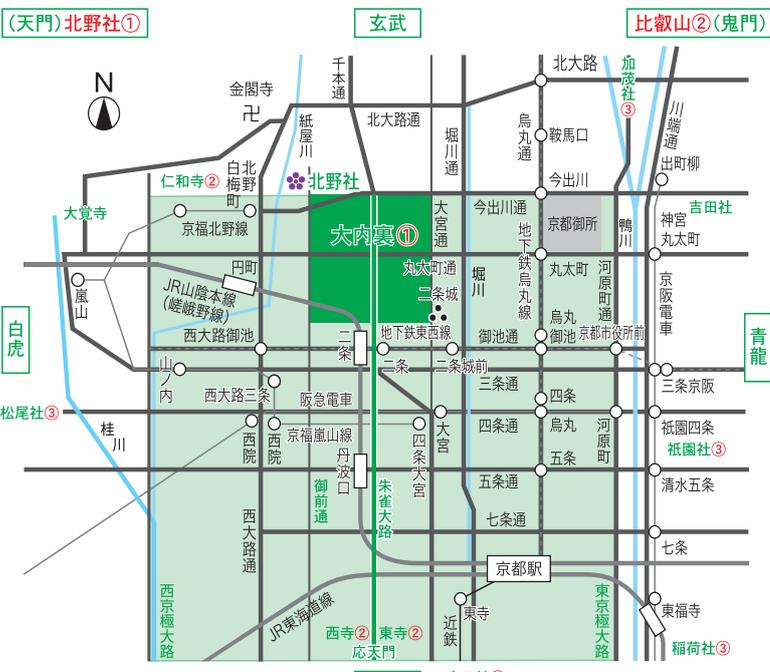


天神信仰の主な歴史 (注) 歴史事項 北野天満宮事項 伝説事項

菅公薨去後、およそ百年かけて醸成され千年受け継がれる天神信仰

承和十二年	八四五	菅原道真公(菅公)御誕生(父是善母伴氏)	父是善との親子の契り
齊衡二年	八五五	初めて詩「月夜に梅華を見る」を作る	(菅公十一歳)
貞観元年	八五九	菅公元服 文章生を目指し勉強	菅公石清水八幡宮参拝
貞観四年	八六二	文章生の試験に合格	(菅公十八歳)
貞観八年	八六六	比叡山延暦寺円仁の『頭揚大戒論』の序文を書く	(菅公二十三歳)
貞観九年	八六七	文章得業生となる	(菅公二十六歳)
貞観十二年	八七〇	方略試(当時最高の国家試験)に合格	(菅公四十二歳)
仁和二年	八八六	この間少内記(詔勅の起草係) 式部少輔など任ぜらるる(菅家廊下を継承)	(菅公四十四歳)
仁和四年	八八八	讃岐守に任ぜられる	(菅公四十四歳)
寛平四年	八九二	これにより宇多天皇に挙用され政治の刷新を図ると共に平安京文化の礎を築く	(菅公五十五歳)
寛平五年	八九三	従四位下『三代実録』『類聚国史』の編纂に着手	
寛平六年	八九四	参議・式部大輔・左大弁を経て勘解由使長官	(菅公五十歳)
寛平七年	八九五	遣唐大使に任ぜらるる	
寛平九年	八九七	渤海客使を接待し詩を交換 中納言従三位	
昌泰二年	八九九	正三位に叙し中宮大夫を兼ねる	
昌泰三年	九〇〇	菅公右大臣に任ず 位人臣を極める	
延喜元年	九〇一	『菅家文章』『菅家後集』『菅家集』を献上す(三善清行、菅公に辞職を勧告)	
延喜三年	九〇三	一月二十五日大宰権帥に左遷される 大宰府南館で謫居の日々(菅公五十七歳)	
延喜五年	九〇五	詩集『菅家後集』を京の紀長谷雄に送る 天拝山で「天満大自在天神」となる	
延喜六年	九〇六	二月二十五日 配所において薨す	(菅公五十九歳)
延喜九年	九〇九	味酒安行 大宰府に祠堂を建て(現在の太宰府天満宮)	
延喜十年	九一〇	菅公を元の右大臣・正二位に叙し、左遷の宣命を破棄す	
天曆元年	九四七	多治比文子に神託	
天曆三年	九四九	比良宮神官の子太郎丸に神託、村上天皇により平安京の天門北野に鎮座す	
天曆五年	九五二	村上天皇御鳳輦御寄進	
天曆七年	九五五	村上天皇勅命により難波宮の地に菅公神霊を祀る(現在の大阪天満宮)	
天曆八年	九五六	右大臣藤原師輔、北野の神殿を増築し神宝を献ず	
天曆九年	九五七	慶滋保胤「文道之祖詩境之主」の願文を草す	
寛和二年	九八七	一條天皇より北野社官幣に預り「北野天満大自在天神」の神号を賜る	
寛和三年	九八八	北野社は官幣社となり勅祭北野祭が斎行される	
寛和四年	九八九	一條天皇御鳳輦御寄進	
正暦四年	九九三	左大臣・正一位、次いで太政大臣を追贈される	
寛弘元年	一〇〇四	一條天皇初めて陛下を祀る北野社に行幸 以後歴代天皇の行幸に与る	
寛弘三年	一〇〇六	北野社が国家の大事を祈る二十二社に加列す	
康和三年	一一〇一	大宰権帥大江匡房により大宰府・安楽寺にて神幸式大祭が斎行される	
建久五年	一一九四	『北野天神縁起』建久本成る	
承久元年	一二一九	『北野天神縁起』承久本成る	

今昔マップ



- ◆北野社創建(平安時代)至現在
- ◆現在の京都
- 平安京全域
- 平安宮大内裏

注① 国都平安京大内裏で千百年間天皇の祭政が執行され、日本文化が育まれてきた。
 注② 平安京・大極殿の天門に北野、鬼門に比叡山、宇多天皇創建の仁和寺などが精神的中心となって熟成の礎となった。
 注③ 八幡さま、稲荷さまを始め多くの神仏は国都平安京(元の国都平城京)の近畿より全国に伝播。

令和九年	二〇二七	菅公千百年大萬燈祭を斎行予定	
令和二年	二〇二〇	例祭(かつての北野祭) 斎行に伴い、比叡山延暦寺と共に北野御霊会を再興	
平成十四年	二〇〇二	菅公千百年大萬燈祭を斎行する	
昭和二十七年	一九五二	菅公千五十年大萬燈祭を斎行する	
昭和三十三年	一九〇二	菅公千五十年大萬燈祭を斎行する	
明治四年	一八七二	北野天満宮 官幣中社となる	
明治四年	一八七二	太宰府天満宮 国幣小社となる(のち官幣中社)	
慶應四年	一八六八	社務を統括していた曼殊院との凡そ千百年間に亘る神仏習合が終わる	
元治元年	一八六四	勅命により北野祭臨時祭再興	
江戶年間	後期	北野をはじめ大宰府・大阪・湯島など主要な天満宮に「和魂漢才碑」建立	
慶長十二年	一六〇七	豊臣秀頼公、北野社を造営する(慶長の大道宮)	
天正十五年	一五八七	出雲阿国が北野境内で初めてややこ踊り(歌舞伎踊り)を公演(歌舞伎発祥)	
応仁元年	一四〇一	北野経王堂成る	
室町幕府の崇徳	隆盛	隆盛を極めるも応仁の乱より途絶える	
北野大茶湯	を豊大閣・千利休居士ら催す		



紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、
紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり
家の風をも吹かせてしがな』

の和歌を詠み励まされました。
我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であったと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



七五三

詣は、知恵の神様

北野天満宮へ

七五三詣は、子供の成長に感謝し無事を祈り、神社にお参りする大切な人生儀礼です。子供は国の宝であり、親にとってもかけがえのない宝です。

北野天満宮で七五三詣をし、子供の成長と無事を祈るとともに、さらに天神様の御加護で知恵を授かりましょう。ご家族お揃いのご参拝をお待ちいたしております。

十一月中、毎日受付いたします。
※但し、十一月二十三日（月）、十一月二十六日（木）は、祭典のためご祈禱を中断する時間帯がございますのでご了承下さい。
※尚、十一月以外の月も、事前にお申込み下さればお受けいたします。

一、授与品・記念品
知恵守、千歳飴、祝い笹、ディスプレイの学用品セット
特別授与品の「勾玉」を進呈

一、七五三詣初穂料
一人 五千円より
二人 八千円（兄弟姉妹に限る）
三人 一万二千元（兄弟姉妹に限る）

一、案内状持参の特典
特別授与品の「勾玉」を進呈



史跡御土居もみじ苑
入苑優待！

七五三詣（ご祈禱お申込み）でご参詣の皆様には、もみじ苑を入苑優待（入苑料半額）させていただきます。



御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。



右記QRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込むと北野天満宮の最新情報にアクセスできます。上記の各SNSでもご案内しております。

●アクセス

名神高速道路南インター又は東インターより約30分
JR京都駅より市バス50・101系統
JR・地下鉄二条駅より市バス55系統
JR円町駅より203系統
地下鉄今出川駅より市バス51・102・203系統
京阪出町柳駅より市バス102・203系統

●参拝時間

- 楼門の開閉時間
6時30分～17時
※もみじ苑ライトアップ期間や正月等は夜間も開門しています。各行事のお知らせ記事をご覧ください。
- 社務所・授与所 受付時間 9時～16時30分
境内の拝観は自由です。

京阪三条駅より市バス10系統
阪急大宮駅より市バス55系統
阪急西院駅より市バス203系統
京福電車白梅町駅より徒歩5分
いずれも北野天満宮前下車すぐ

●ご祈禱

- 受付時間 9時～16時30分
- 受付場所 御本殿東側授与所

●駐車場

参拝専用です。
駐車は参拝時間内に限ります。
■ 開場時間 9時～17時
※毎月25日は、縁日のため駐車できませんので公共交通機関でお願いします。